

UPM

Business-Oriented Network Management Solution

ユーザーガイド

(UPM 4.1)

著作権所有© 2015 Colasoft LLC. すべての権利を留保する。本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。本書の全ての内容は、Colasoft の書面による明確な許可無しに、いずれの目的のためにも、複写を含む電子または機械によるいかなる形式または手段によっても、転載、または拡散をしてはならない。

Colasoft は、ユーザーへの予告や通知なしに製品デザインを変更する権利を留保します。

お問い合わせ

電話番号

090-7197-9436

Sales

sales.jp@colasoft.com

技術サポート

support.jp@colasoft.com

ウェブサイト

<http://www.colasoft.com/jp/>

目次

はじめに	1
概要	2
構成要素	2
機能特徴	2
デプロイメント	3
技術サポート	3
インストールとアクティベーション	5
Colasoft UPM をインストール	5
UPM をアクティブ化	5
オンラインでアクティブ化	7
ライセンスファイルでアクティブ化	7
ビジネスの集中監視	8
ビジネスの集中監視ページ	8
ビジネスの並べ替え	8
ビジネスのフィルタリング	8
監視サイクル	9
ビジネスを検索	9
アラームログタブ	9
アラーム統計タブ	9
ビジネス詳細	9
ビジネスグループ	10
グループを追加	10
グループを修正	11
グループを削除	11
ビジネス管理	12
ビジネスを追加	12
ビジネスを修正	12
ビジネスを削除	12
インテリジェンスアプリケーション整理	14
ノードを設定	14
ノードフィルター	15
時間フィルター	15

プローブフィルター.....	15
ノードタイプフィルター.....	15
検索フィルター.....	16
アクセス関係図.....	16
関係図.....	16
マトリックス図.....	17
ノード操作.....	18
サービスアクセスリスト.....	20
アプリケーションを追加.....	21
アプリケーションに追加.....	21
クライアントを表示.....	21
ノードを削除.....	21
ビジネスに追加.....	21
アプリケーションを修正.....	22
アプリケーションを削除.....	22
ビジネス解析.....	23
ビジネス解析ページ.....	23
ビジネスアラーム状態.....	23
時間範囲を設定.....	23
時間選択ボタン.....	24
ビジネスロジックチャート.....	24
ノード情報を表示.....	25
インターフェース情報を表示.....	25
ネットワークトポロジを重ねる.....	26
ビジネスストランザクションパスを表示.....	26
ショートカット.....	26
ネットワークトポロジ.....	27
アプリケーション重要指標.....	27
アプリケーション重要指標を設定.....	28
ショートカット.....	28
アラームリスト.....	28
アラームを処理.....	29
イベントリスト.....	29
履歴監視記録.....	29
データの自動更新.....	30

SLA レポートを生成.....	30
レポート時間を設定.....	30
SLA レポート内容.....	31
ビジネスを設定.....	33
専門用語.....	33
ビジネスを定義.....	34
ビジネスロジックチャート.....	34
ノードタイプ.....	35
ビジネスロジックチャートを設定.....	36
ビジネスストランザクションパス.....	39
アラームを設定.....	40
アラームを追加.....	40
アラーム評価.....	41
マルチセグメント解析.....	43
マルチセグメント解析設定.....	43
時間範囲を設定.....	43
アプリケーションパスを指定.....	43
解析指標を設定.....	44
データの自動更新.....	44
マルチセグメント解析結果.....	44
アプリケーション通信パス.....	45
指標比較.....	45
指標トレンドチャート.....	45
総合指標のクエリ.....	46
時間を選択.....	46
指標をクエリ.....	46
指標グループ.....	47
リスト表示.....	48
ツリー表示.....	49
指標チャート.....	49
チャートグループを追加.....	49
チャートを追加.....	50
チャート利用について.....	50
特定時間帯のデータをクエリ.....	51

データの自動更新.....	51
パケットをダウンロード.....	52
SLA レポート	53
SLA レポートテンプレート.....	53
SLA レポートの定期送信.....	53
UPM 設定	55
アプリケーション管理.....	55
nChronos サーバー管理.....	58
nChronos サーバーアカウントを追加	59
nChronos サーバー情報を表示	59
プローブ管理.....	59
プローブを追加.....	60
事前定義のアラーム.....	61
アラームテンプレート	61
アラームを追加.....	62
アラームと情報送信.....	64
アラーム送信	64
Syslog 送信.....	64
ネットワークセグメント管理.....	65
ネットワークセグメントを追加	65
ネットワークデバイス管理.....	65
イベント管理.....	66
SLA レポート送信.....	67
ユーザーアカウント.....	68
ユーザーアカウントを追加	68
ユーザー権限を確認	69
SMTP 設定.....	69
UPM 管理	71
監査ログ.....	71
設定をインポート/エクスポート.....	71
設定をインポート	71
設定をエクスポート	72
システム情報.....	73
システムアクティベーション.....	74

システム設定.....	74
ワーキング時間を設定.....	74
インテリジェンスアプリケーション整理設定.....	75

はじめに

要約

このユーザーガイドは Colasoft UPM の設定、日常の運用・保守など使用方法について紹介しています。

対象読者

このユーザーガイドは、すべての Colasoft UPM ユーザーを対象として、作成されたものです。

概要

Colasoft UPMはネットワークビジネス向けのパフォーマンス管理システムです。ビジネス層、アプリケーション層からネットワーク層までのネットワーク状況を解析することで、UPMはビジネスパフォーマンスとネットワークの運用・保守を密接に結び付け、ビジネスのパフォーマンス、品質、トラブル、セキュリティ問題を監視し、ビジネス解析の可視表示を提供します。そして、ビジネスを中核としたネットワークの運用・保守能力を向上させることで、ビジネスパフォーマンスを高め、トラブルシューティングの効率を上げることができるシステムです。

構成要素

Colasoft UPMはnChronosサーバー（「フロントエンド」とも呼ぶ）とUPM解析センター（以下は「UPMセンター」と呼ぶ）から構成されています。

フロントエンドデバイスはビジネスシステムの通信リンクにおける重要ノードに配置され、スイッチポートミラーリングまたはネットワークタップを通じて、ビジネス通信データをキャプチャーします。フロントエンドは、性能指標パラメータとアプリケーションアラーム情報をリアルタイムに収集、解析し、管理インターフェースを介してUPMセンターにアップロードします。

UPMセンターは、フロントエンドデバイスを集中管理するために配置され、フロントエンドにアップロードされたビジネス性能指標およびアラーム情報を統合解析し、その解析結果を表示します。

機能特徴

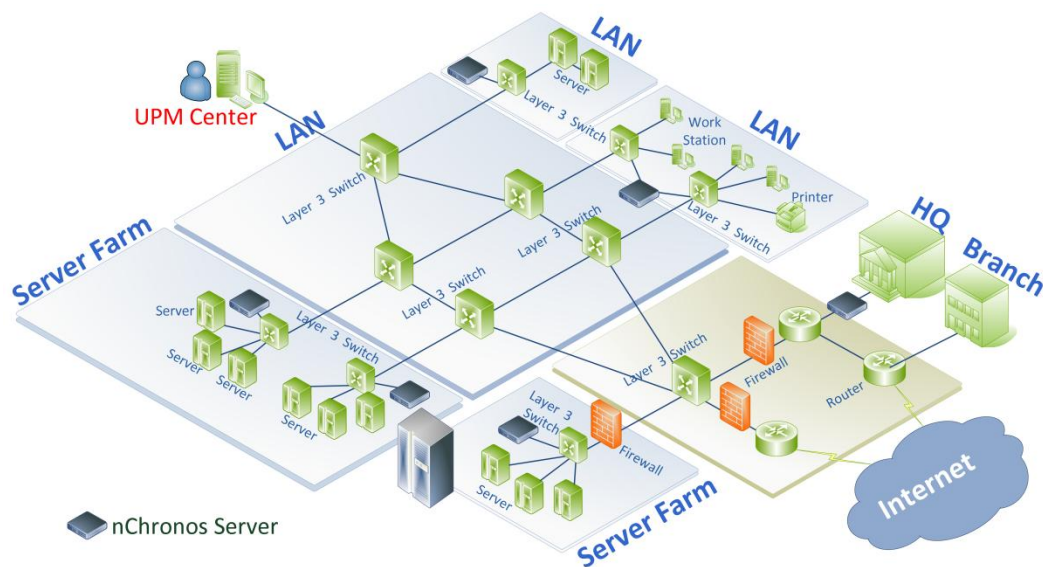
Colasoft UPMの主な機能は以下の通りです。

- ビジネスの集中監視をサポート
各ビジネスの運行状態をグラフィカルに表示することで、ユーザーは迅速に異常なビジネスを発見できます。
- インテリジェンスアプリケーション整理をサポート
フロントエンドがアップロードされたサービスアクセスデータに基づいて、ネットワークにおけるホストとサービスのアクセス関係をグラフィカルに表示します。アクセス関係図を通じて、アプリケーションを素早く定義し、アプリケーション整理を行うことができます。
- ビジネスロジックチャートをサポート
ユーザーは実際のビジネス関係により、ビジネスロジックチャートを定義することができます。ビジネスにおけるアプリケーションにトラブルが発生した場合、このアプリケーションはロジックチャートをハイライトで表示します。ユーザーはそれを利用して、迅速に問題点を特定することができます。
- ビジネスの履歴解析をサポート
ビジネスの履歴データをクエリすることで、トラブル発生時の状況を迅速に再現し、問題解析することでトラブルシューティングに役立てます。

- マルチセグメント解析をサポート
単一アプリケーションのマルチセグメント解析を提供します。ロスセグメント、再送信、および他のトラブルが発生した場合、関連のフロントエンドからそのアプリケーションのデータを抽出して、比較解析を行います。
- 総合指標のクエリ
システムは、アプリケーション、サーバーおよびクライアントの指標をクエリして、グラフィカルに表示する機能を提供します。ユーザーは異なる指標間の比較クエリと異なる時間帯における同じ指標の比較クエリを行うことができます。
- パケットのダウンロードをサポート
アプリケーションおよびアプリケーションパスに基づいて、パケットをダウンロードすることができます。
- 設定のプッシュをサポート
アプリケーション、アラームおよびネットワークセグメントの設定は自動的に UPM センターからフロントエンドにプッシュすることができます。

デプロイメント

UPM のデプロイメント例を、下図に示します。



技術サポート

基本的には、商業顧客とフリーウェアユーザーを含め、当社製品を使用している全てのユーザーに対して、技術サポートを提供します。ですが、商業顧客が優先され、営業日一日以内で技術サポートが得られることについて、ご了承をお願いいたします。

一般的な質問については [Knowledge Base \(英語\)](#) をご参照ください。

ウェブサイトサポート

最新 FAQ や専門用語などについては、 <http://www.colasoft.com/jp/> に、バージョンアップグレード情報と関連する公開リソースがありますので参照願います。

E メールサポート

技術問題がございましたら、いつでも気軽に support.jp@colasoft.com にお問い合わせください。われわれは可能な限り早く返信します。Eメールには製品のシリアル番号、製品のバージョンとエディション、オペレーティングシステムのバージョン、トラブルの詳細説明、および他の関連情報を記入する必要があります。

フォーラムサポート(英語)

[サポートフォーラム](#)では、当社のサポートを得るだけでなく、ご提案を提出し、当社の製品について他のユーザーと議論することもできます。ぜひともサポートフォーラムに参加してください。

インストールとアクティベーション

この章では、Colasoft UPM のインストールとアクティベーションを紹介します。

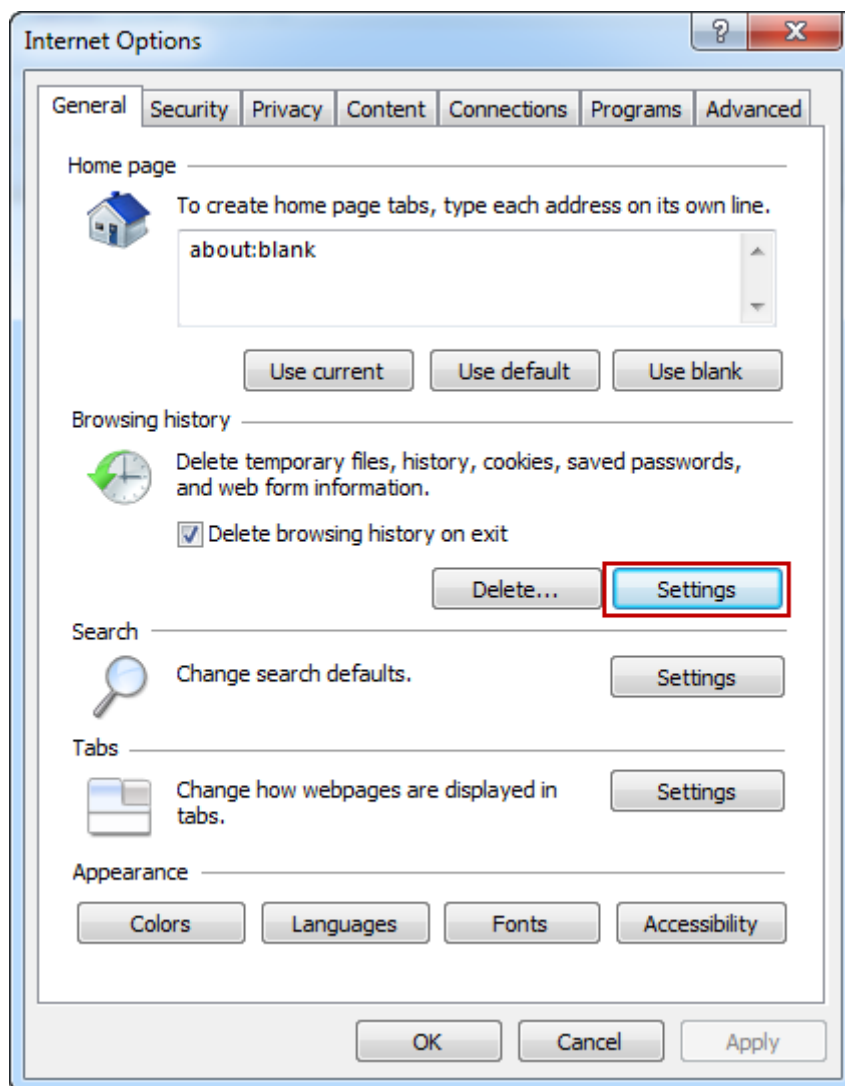
Colasoft UPM をインストール

Colasoft UPM センターのインストールについては「UPM インストールマニュアル」をご参照ください。

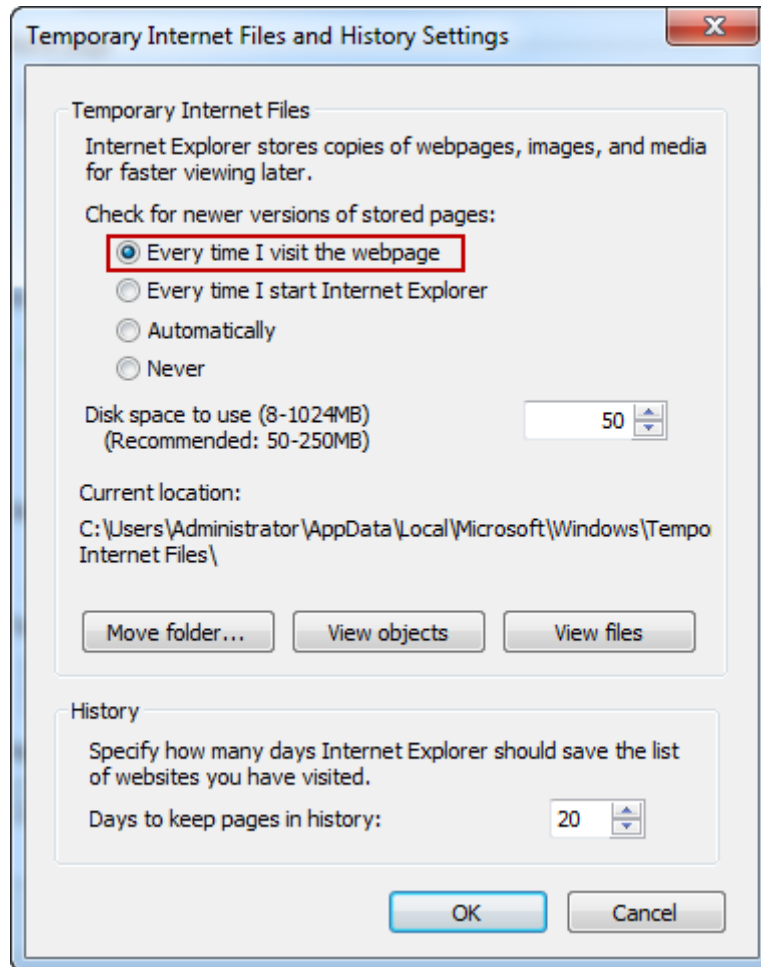
UPM をアクティブ化

ブラウザとして Internet Explorer を使用している場合、まず以下のステップに従い、いくつかの設定を行う必要があります。

1. Internet Explorer を起動します。
2. ツール → インターネットオプション をクリックして、インターネットオプションダイアログボックスを開きます。



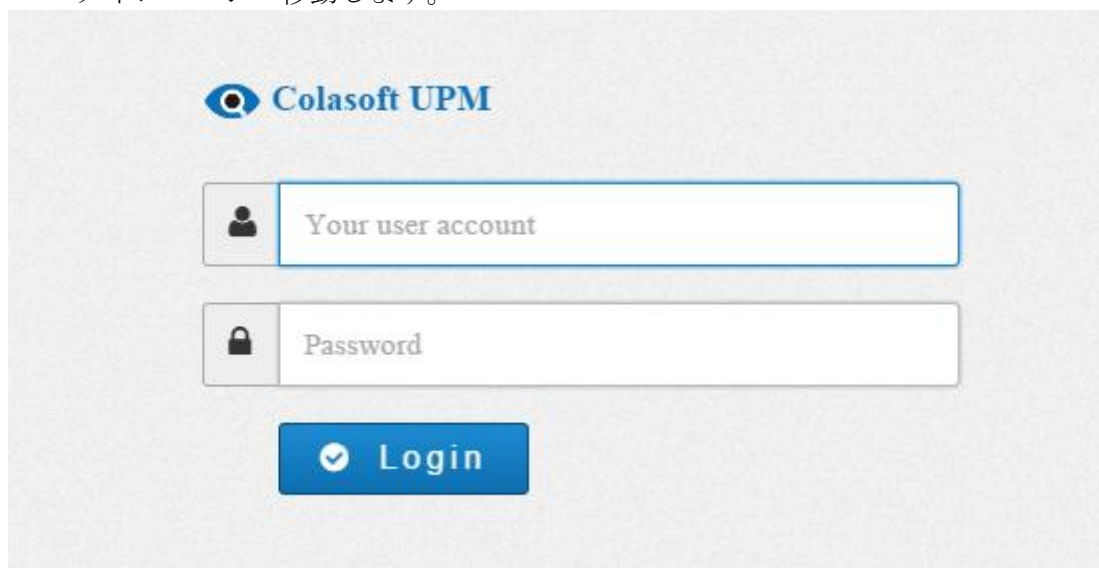
3. 「全般」タブにおける「閲覧の履歴」部分で「設定」をクリックして、開かれた「インターネット一時ファイルと履歴の設定」ダイアログボックスで「Web サイトを表示するたびに確認する」にチェックを入れます。



4. OK をクリックして、設定を保存します。

Colasoft UPM のアクティベーションについて「UPM インストールマニュアル」をご参照ください。

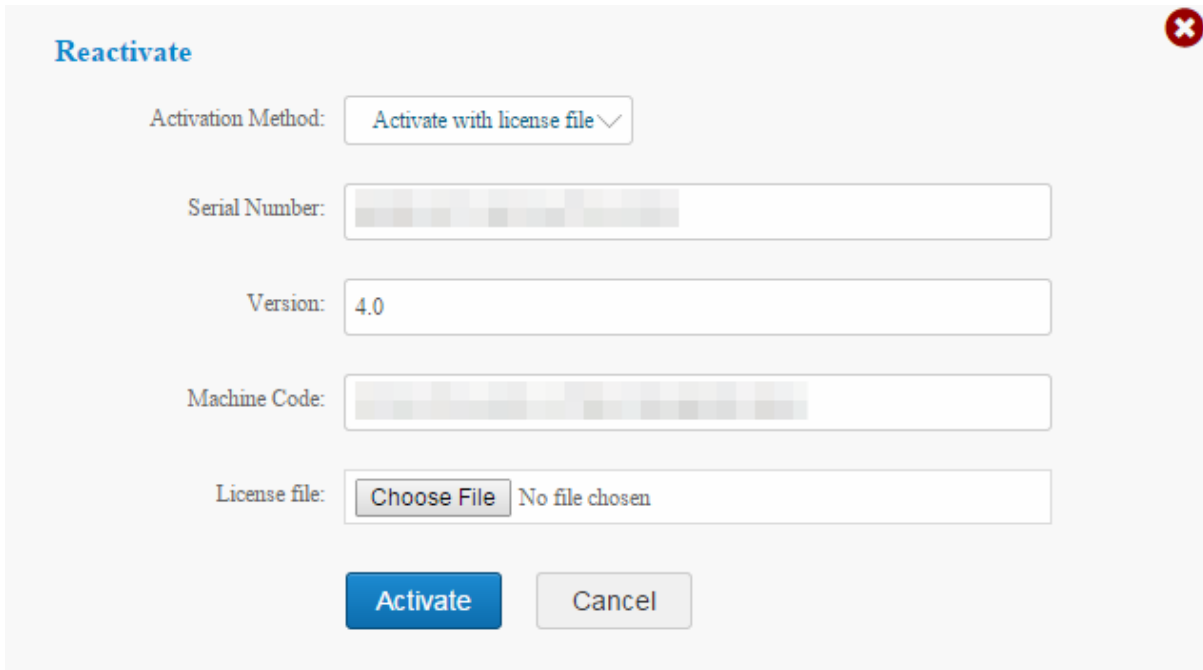
ブラウザのアドレスバーに「https://+サーバーIP（UPMセンターをインストールする時設定されたIPを指す）」を入力して、「Enter」を押すことで、下図のようにUPMセンターログインページへ移動します。



Note ユーザーは UPM センターの IP アドレスを変更することができます。

UPM センターをインストールする時設定されたユーザーアカウントとパスワードでログインします。

システムを再アクティブ化する必要がある場合、**UPM 管理**→**システムアクティベーション**をクリックして、「システムアクティベーション」ページへ移動します。そして、「再アクティブ化」をクリックして、下図のように再アクティブ化ダイアログボックスが表示されます。



システムを再アクティブ化するには、「オンラインでアクティブ化」と「ライセンスファイルでアクティブ化」という二つの方法があります。

オンラインでアクティブ化

ネットワークに接続している場合、「オンラインでアクティブ化」を選択することができます。シリアル番号を入力し、「アクティブ化」をクリックすれば、アクティベーションが自動的に完了します。この方法は、迅速かつ簡単で、数秒しかかかりません。

ライセンスファイルでアクティブ化

インターネットに接続していない場合、またはオンラインでアクティブ化に失敗した場合、「ライセンスファイルでアクティブ化」を選択することができます。以下のステップに従い、ライセンスファイルでシステムをアクティブ化します。

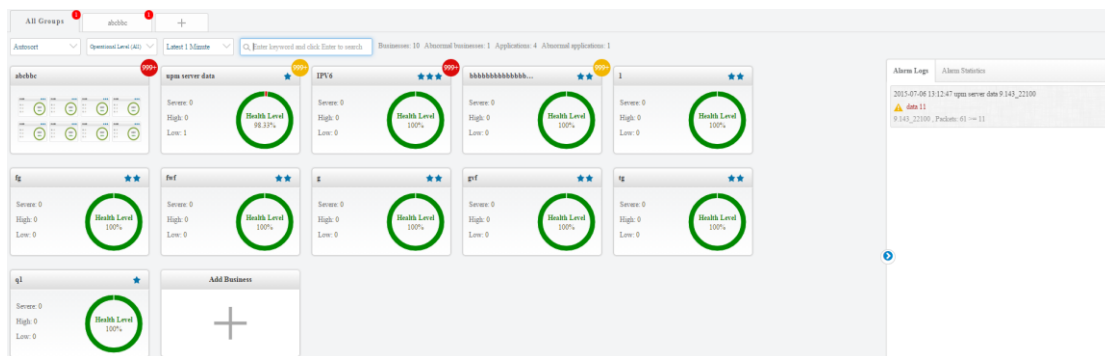
1. アクティベーションページでシリアル番号を入力します。マシンコードは自動的に生成されます。
2. シリアル番号、マシンコードおよび製品バージョンを support.jp@colasoft.com に送信します。Colasoft サポートは二営業日以内でライセンスファイルを送付します。
3. 「参照」をクリックして、ライセンスファイルをインポートします。
4. 「アクティブ化」をクリックして、システムをアクティブ化します。

ビジネスの集中監視

この章では、ビジネスの集中監視ページのレイアウトと機能について紹介します。

ビジネスの集中監視ページ

ビジネスの集中監視ページは、下図のようにビジネスとビジネスグループの状態を表示します。



ビジネスの並べ替え

ビジネスの集中監視ページで、ユーザーは以下のフィールドに基づいて、ビジネスとビジネスグループを並べ替えることができます。

- 名前: ビジネスまたはビジネスグループの名前で並べ替えます。ソート順は数字->アルファベットです。
- 健全度: 低いから高いまで健全度に基づいてビジネスまたはビジネスグループを並べ替えます。
- アラーム数: 多いから少ないまでアラーム数に基づいてビジネスまたはビジネスグループを並べ替えます。
- 未処理アラーム数: 多いから少ないまで未処理アラーム数に基づいてビジネスまたはビジネスグループを並べ替えます。
- アラームレベル: 高いから低いまでアラームレベルに基づいてビジネスまたはビジネスグループを並べ替えます。
- 運用保守レベル: 高いから低いまで運用保守レベルに基づいてビジネスまたはビジネスグループを並べ替えます。
- ユーザー定義: この並べ替えモードで、ユーザーはビジネスまたはビジネスグループを手動でドラッグすることで並べ替えることができます。

ビジネスのフィルタリング

ユーザーはドロップダウンリストから運用保守レベルを選択することで、選択した運用保守レベルに応じてビジネスを表示フィルタリングすることができます。高(★★★)、中(★★)、低(★)から運用保守レベルを選択することができます。

表示フィルタリングをキャンセルするには、ドロップダウンリストから「運用保守レベル(すべて)」を選択すればよいのです。

監視サイクル

ユーザーは監視期間を過去 1 分間、過去 5 分間、過去 15 分間、過去 1 時間、および今日に設定することができます。

ビジネスを検索

ユーザーは各ビジネスグループでビジネスを検索することができます。検索ボックスに適切なキーワードを入力することで、そのキーワードと関連しているビジネスだけが表示されます。

アラームログタブ

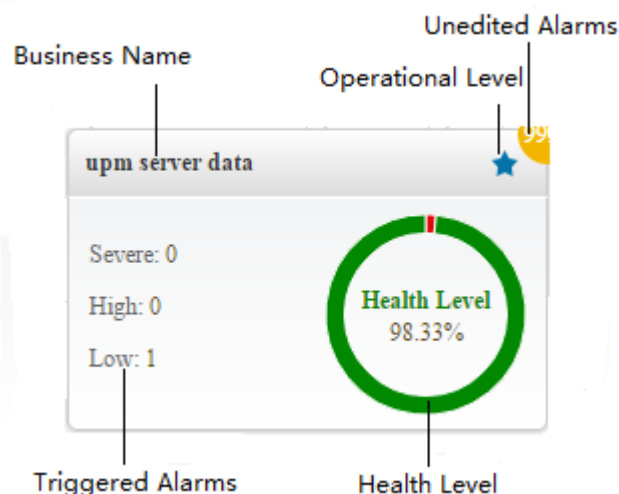
アラームログタブは選択されたビジネスのアラームログ情報を表示します。アラームログ情報には、アラームトリガー時間、ビジネス名、アプリケーション名、アラーム名、トリガー IP、およびトリガー条件が含まれています。

アラーム統計タブ

アラーム統計タブは各アラームタイプのトリガー情報を表示します。アラーム統計アイテムを一つクリックすることで、そのアラームタイプの詳細なトリガー記録を確認することができます。

ビジネス詳細

ビジネスの集中監視ページには、下図のように各ビジネスのビジネス名、運用保守レベル、未処理アラーム数、トリガーされたアラーム数および健全度が表示されます。



- 「トリガーされたアラーム数」は監視期間内でトリガーされたアラームの数を表します。
- 「健全度」は監視期間内におけるビジネスの健全レベルを表します。監視期間内でトリガーされたアラームがない場合、健全度が 100% となります。
- 「未処理アラーム数」はまだ処理されていないアラーム数を表します。

右上の未処理アラーム数をクリックして、下図のように未処理アラームページに入ります。このページでまだ処理されていないアラームを処理することができます。

Unhandled Alarms

Business: intsum Probe: All Last Probe Date: Search

Select All	Operation	Packets Download	Triggering Time	Probe	Alarm Category	Alarm Name	Triggering Source	Triggering IP	Triggering Condition	Alarm Description	Operator	Alarm Status	Handler	Alarm Handling Description	Related Fa
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:23:30	196use	Abnormal Traffic	server	143mm	143mm	Packets: 3 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:23:30	196use	Abnormal Traffic	silence	143mm	192.168.0.196	Packets: 5 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:23:40	196use	Abnormal Traffic	server	143mm	143mm	Packets: 3 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:23:40	196use	Abnormal Traffic	silence	143mm	192.168.0.196	Packets: 3 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:23:30	196use	Abnormal Traffic	server	143mm	143mm	Packets: 87 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:23:30	196use	Abnormal Traffic	silence	143mm	192.168.0.196	Packets: 87 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:23:20	196use	Abnormal Traffic	111	143mm	192.168.0.143	Bytes: 387512 => 111111			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:23:20	196use	Abnormal Traffic	server	143mm	143mm	Packets: 3 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:23:20	196use	Abnormal Traffic	silence	143mm	192.168.0.196	Packets: 3 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:23:10	196use	Abnormal Traffic	server	143mm	143mm	Packets: 3 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:23:10	196use	Abnormal Traffic	silence	143mm	192.168.0.196	Packets: 3 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:23:00	196use	Abnormal Traffic	196use	143mm	192.168.0.196	Packets: 119 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:23:00	196use	Abnormal Traffic	server	143mm	143mm	Packets: 3 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:23:00	196use	Abnormal Traffic	silence	143mm	192.168.0.196	Packets: 3 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:22:50	196use	Abnormal Traffic	server	143mm	143mm	Packets: 3 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:22:50	196use	Abnormal Traffic	silence	143mm	192.168.0.196	Packets: 3 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:22:40	196use	Abnormal Traffic	server	143mm	143mm	Packets: 3 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:22:40	196use	Abnormal Traffic	silence	143mm	192.168.0.196	Packets: 3 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:22:30	196use	Abnormal Traffic	server	143mm	143mm	Packets: 104 => 1			Need handling			
<input type="checkbox"/>	GF		2015-10-15 21:22:30	196use	Abnormal Traffic	silence	143mm	192.168.0.196	Packets: 104 => 1			Need handling			

Total: 5652 record(s) 20 records per page 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11

未処理アラームページで、ユーザーはビジネス、プローブ、日付およびキーワードによって未処理アラームをフィルタリングすることができます。

- 「処理」ボタンをクリックして、選択された一つまたは複数のアラームを処理することができます。
- 「すべてのアラームを処理」ボタンをクリックして、フィルター条件と一致するすべてのアラームを処理することができます。
- アラームリストにおける操作カラムで ボタンをクリックして、そのアラームを処理することができます。

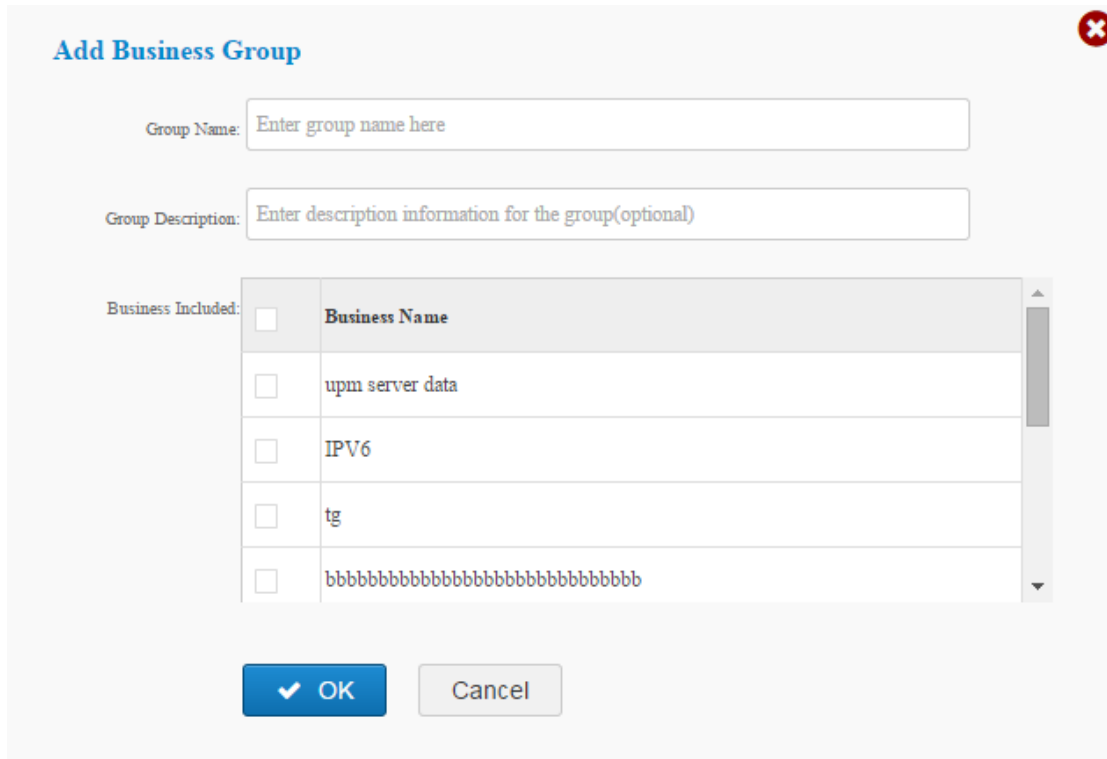
ビジネスグループ

ビジネスがたくさんある場合、必要に応じて、ビジネスをグループ分けすることができます。

グループを追加

ビジネスの監視ページには、すべてのビジネスとビジネスグループが含まれる「すべてのグループ」というデフォルトグループがあります。一つのビジネスは複数のビジネスグループに追加することができます。

「すべてのグループ」の横にある **+** ボタンをクリックして、下図のようにビジネスグループを追加するダイアログボックスが開かれます。ここでビジネスグループを設定、追加することができます。



Add Business Group ✖

Group Name:


Group Description:

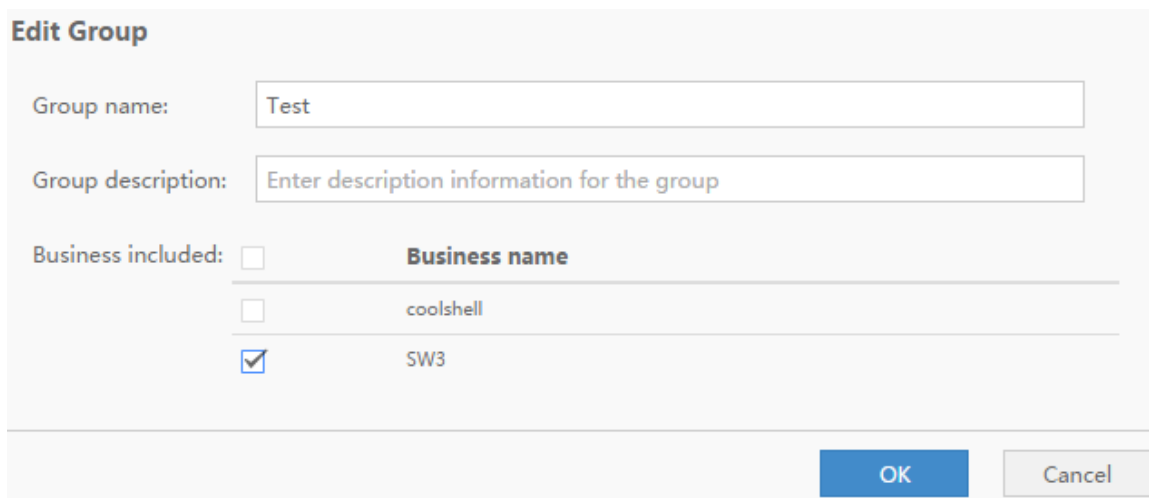
Business Included:

<input type="checkbox"/>	Business Name
<input type="checkbox"/>	upm server data
<input type="checkbox"/>	IPV6
<input type="checkbox"/>	tg
<input type="checkbox"/>	bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb

グループを修正

ユーザーは、グループ名、グループ説明およびビジネス設定を含め、追加されたグループの情報を修正することができます。

右側にある  ボタンをクリックし、「グループを修正」をクリックすることで、下図のようにグループを修正するダイアログボックスが表示されます。



Edit Group

Group name:


Group description:

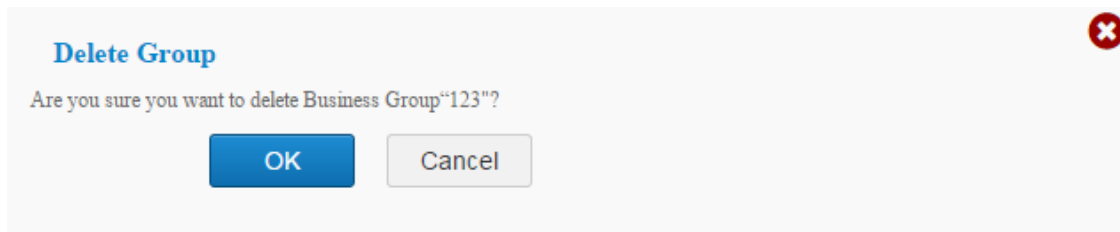
Business included:

<input type="checkbox"/>	Business name
<input type="checkbox"/>	coolshell
<input checked="" type="checkbox"/>	SW3

グループを削除

グループを修正するほかに、ユーザーはグループを削除することもできます。

右側にある  ボタンをクリックし、「グループを削除」をクリックすることで、下図のようにビジネスグループを削除することができます。



ビジネス管理

ビジネス管理では、ビジネスの追加、修正、および削除について説明しています。

ビジネスを追加

下図のように、ユーザーは各ビジネスグループのためにビジネスを追加することができます。

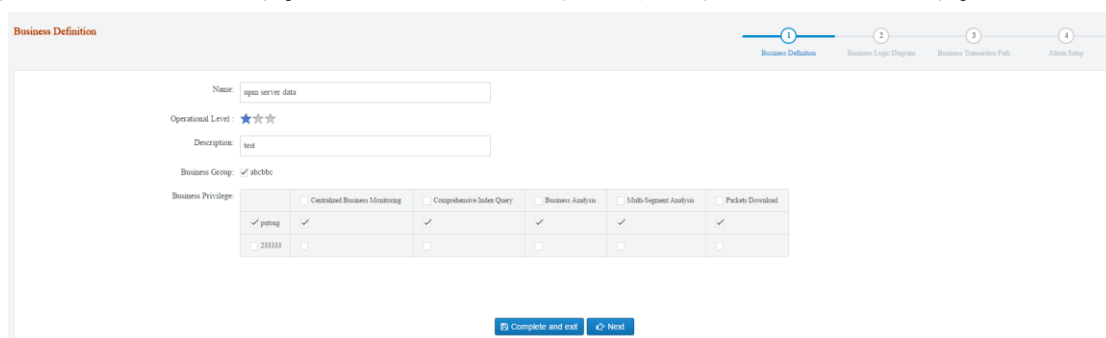


ビジネスを追加するには、「+」をクリックして、ビジネスを追加するページへ移動します。ビジネスを追加する詳しい情報について、「ビジネスを設定」をご参照ください。

ビジネスを修正

ユーザーは追加されたビジネスを修正することができます。

修正したいビジネスを選択し、「修正」をクリックすることで、下図のようにビジネスを編集するページに入ります。このページでビジネスを修正することができます。

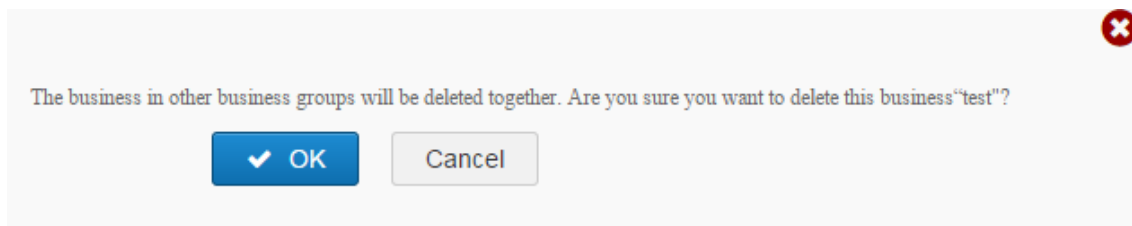

 A screenshot of the "Business Definition" form. It includes fields for Name, Operational Level (set to 3 stars), Description, and Business Group. Below these is a "Business Privilege" table with columns for various monitoring and analysis features. At the bottom are "Complete and exit" and "Next" buttons.


Business Privilege	Centralized Business Monitoring	Comprehensive Sales Query	Business Analysis	Multi-Segment Analysis	Packets Download
ping	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
23333	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ビジネスを削除

ビジネスを修正するほかに、追加されたビジネスを削除することもできます。

ビジネスを削除するには、ビジネスを選択して、「削除」をクリックすることで、下図のようなダイアログボックスが表示されます。



 **Note** ビジネスが複数グループに属している時、あるビジネスグループでそのビジネスを削除する場合、他のグループでそのビジネスも削除されます。

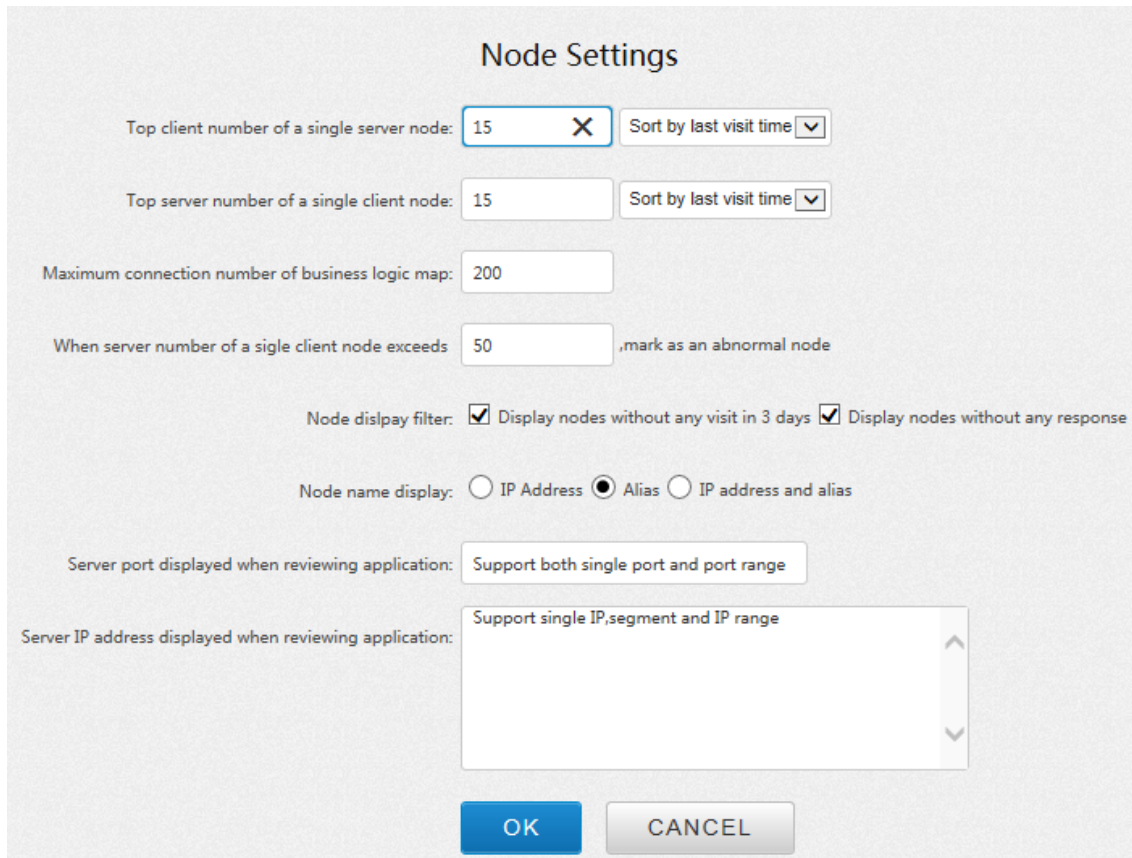
インテリジェンスアプリケーション整理

プローブがキャプチャーされたサービスアクセスデータに基づいて、インテリジェンスアプリケーション整理ページはホストとサービスのアクセス関係をグラフィカルに表示します。ユーザーは、アクセス関係図に基づいて、迅速にアプリケーションを整理することができます。

ノードを設定

関心のアプリケーションに集中し、アクセス関係図を簡略化するために、アプリケーションを整理する前に、ユーザーはノードを設定する必要があります。

「設定」ボタンをクリックして、下図のようにノード設定ダイアログボックスが表示されます。



The image shows a 'Node Settings' dialog box with the following fields and options:

- Top client number of a single server node: 15 (with a clear 'X' button) and a dropdown menu set to 'Sort by last visit time'.
- Top server number of a single client node: 15 and a dropdown menu set to 'Sort by last visit time'.
- Maximum connection number of business logic map: 200.
- When server number of a single client node exceeds: 50, mark as an abnormal node.
- Node display filter: Display nodes without any visit in 3 days and Display nodes without any response.
- Node name display: IP Address, Alias, IP address and alias.
- Server port displayed when reviewing application: Support both single port and port range.
- Server IP address displayed when reviewing application: Support single IP, segment and IP range.

At the bottom, there are 'OK' and 'CANCEL' buttons.

ノード設定ダイアログボックスには、以下のオプションが含まれています。

1. **単一サーバーノードの Top クライアント数**: 設定可能な範囲は 1 から 50 までです。デフォルトでは 15 となります。トラフィックまたは最近アクセス時間で並べ替えることができますが、デフォルトでは最近アクセス時間で並べ替えます。
2. **単一クライアントノードの Top サーバー数**: 設定可能な範囲は 1 から 50 までです。デフォルトでは 15 となります。トラフィックまたは最近アクセス時間で並べ替えることができますが、デフォルトでは最近アクセス時間で並べ替えます。
3. **ビジネスロジックチャートの最大接続数**: 設定可能な範囲は 1 から 500 までです。デフォルトでは 200 となります。

4. **異常ノード**: 単一クライアントノードのサーバー数が設定された数を超えたら、異常ノードとマークします。設定可能な範囲は 5 から 10,000 までです。デフォルトでは 50 となります。
5. **ノード表示フィルター**: 最近の三日間でアクセスしていないノードと未応答ノードを表示するかどうかを設定します。デフォルトでは表示します。
6. **ノード名を表示**: 表示するノード名フォーマットを設定します。IP アドレス、別名、IP アドレスと別名から選択することができます。デフォルトでは別名としてノード名を表示します。
7. **アプリケーションを整理するときに表示されるサーバーポート**: サーバーポートリストに追加されたポートと関係しているノードだけ、アクセス関係図に表示されます。単一ポートとポート範囲を入力することができます。デフォルトではポートが設定されていません。すなわちすべてのノードは関係図に表示されます。
8. **アプリケーションを整理するときに表示されるサーバーIP アドレス**: サーバーIP アドレスに追加された IP アドレスと関係しているノードだけ、アクセス関係図に表示されます。単一 IP、セグメント、および IP 範囲を入力することができます。デフォルトでは IP アドレスが設定されていません。すなわちすべてのノードが関係図に表示されます。

ノードフィルター

関係図にノードがたくさんある場合、ノードフィルターを設定することで、関心のあるノードをフィルタリングすることができます。システムは時間フィルター、プローブフィルター、ノードタイプフィルターおよび検索フィルターという四つのフィルターを提供します。

時間フィルター

ユーザーは時間範囲を設定することで、特定の時間帯のノードをフィルタリングすることができます。時間ボックスをクリックして、時間設定ダイアログボックスがポップアップされます。今日、昨日、先週、先月という四つの時間範囲から選択することもできますが、自分で時間範囲を定義することもできます。時間範囲をカスタマイズする場合、最小範囲は 1 日となります。

プローブフィルター

関係図におけるすべてのデータはプローブによって採集されました。ユーザーはプローブを選択することで、特定のプローブが採集したデータをフィルタリングすることができます。プローブボックスをクリックして、ドロップダウンリストからプローブを選択します。デフォルトではすべてのプローブが選択されています。すなわちすべてのノードが関係図に表示されます。

ノードタイプフィルター

アクセス関係図において、ノード間の接続タイプは TCP または UDP である可能性があります。ユーザーはノード接続タイプを選択することで、特定タイプのノードをフィルタリングすることができます。ノードタイプボックスをクリックして、ドロップダウンリストからノードタイプを選択します。デフォルトでは、すべてのタイプのノードを表示します。

検索フィルター

UPM は検索ボックスを提供します。ユーザーは検索ボックスで直接アプリケーションまたはホストを入力して、アプリケーションまたはホストのアクセス関係図を確認することができます。

アクセス関係図

アクセス関係図には関係図とマトリックス図という二つのタイプがあり、ボタンを通じて切り替えることができます。アクセス関係図において、一つのノードは一つの IP アドレスを表し、一つまたは複数ポートと関連しています。サーバーノードの場合、複数アプリケーションを提供する可能性があります。

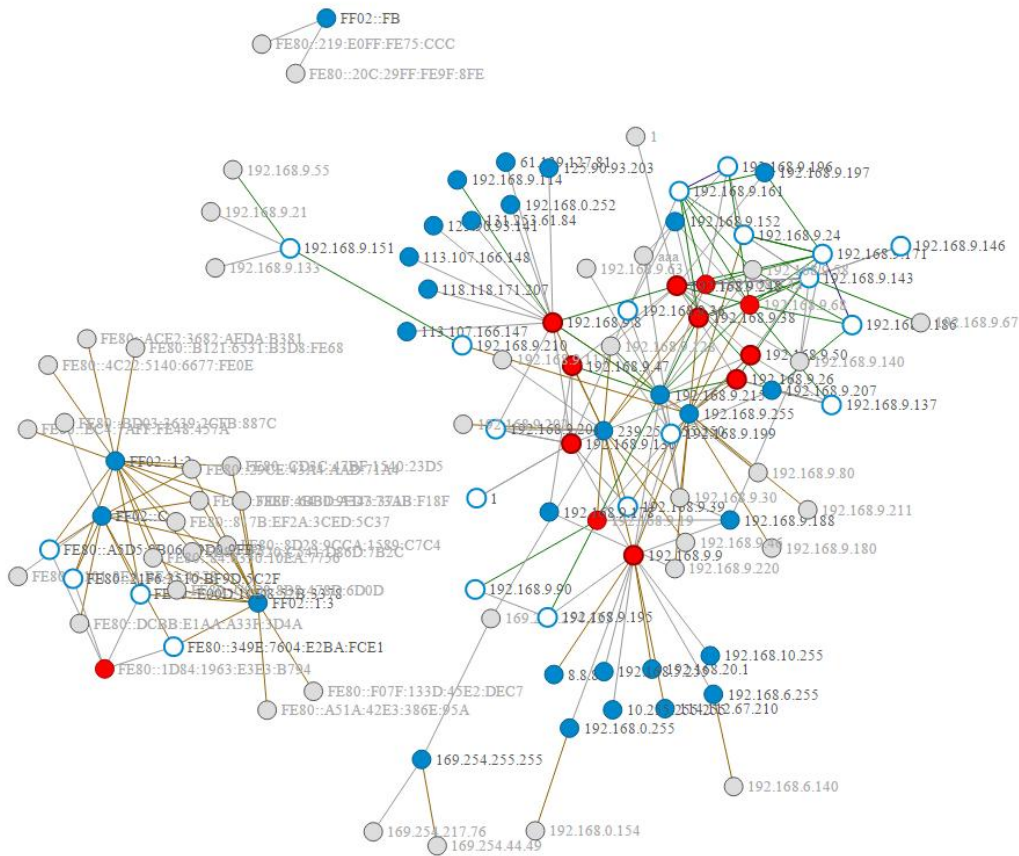
アクセス関係図において、色が異なるいくつかのタイプのノードとラインがあります。以下はそれらのノードとラインについて説明しています。

- 紫のラインは TCP/UDP 接続を表します。
- 緑のラインは TCP 接続を表します。
- ブラウンのラインは UDP 接続を表します。
- 濃い灰色のラインは無応答の接続を表します。
- 灰色のラインは無アクセスの接続を表します。
- 青のノードはサーバーノードを表します。
- 灰色のノードはクライアントノードを表します。
- 中空の青のノードはサーバーノードとクライアントノードの両方を表します。
- 赤のノードは異常ノードを表します。

ユーザーは左側にある「ヘルプ」ボタンをクリックして、各ノードとラインの意味を確認することができます。

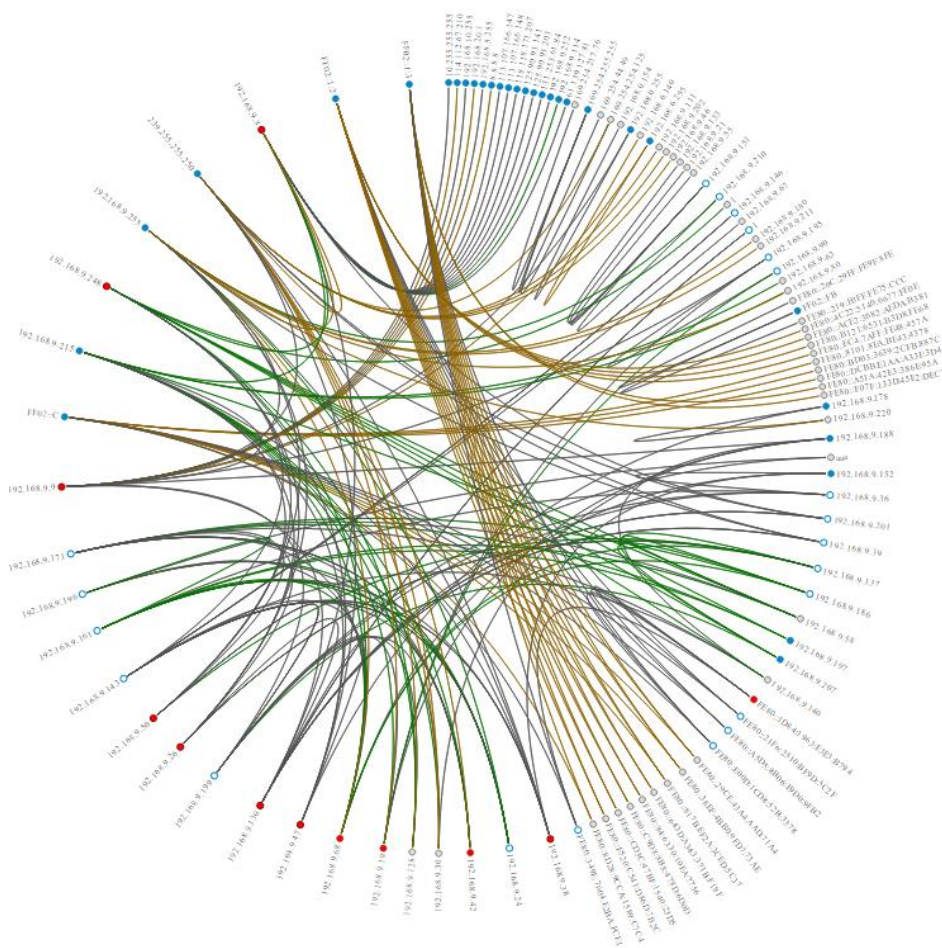
関係図

関係図は以下のように表示されます。



マトリックス図

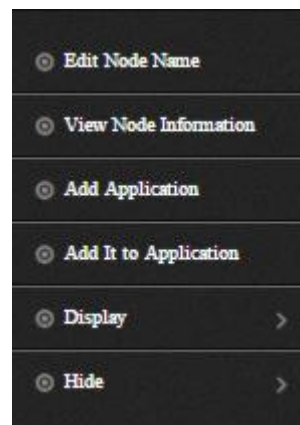
マトリックス図は以下のように表示されます。



マトリックス図であるノードを選択した場合、そのノードと関連する情報を便利に確認するために、そのノードと接続していないノードとラインは一時的に灰色になります。

ノード操作

アクセス関係図におけるノードに対して、「ノード名を修正」、「ノード情報を表示」、「アプリケーションを追加」、「アプリケーションに追加」、「表示」、「隠す」という六つの操作を行うことができます。あるノードを右クリックして、下図のようなダイアログボックスが表示されます。



注意 ノードタイプによって、ポップアップされたダイアログボックスも違います。

1. ノード名を修正:

デフォルトでノード名は IP アドレスとして表示されます。ユーザーは必要に応じてノ

ード名を修正することができます。

2. ノード情報を表示:

クライアントノードの場合、「ノード情報を修正」をクリックすることでポップアップされたダイアログボックスは、下図のようにそのノードの詳細情報とノードがアクセスしたサーバーリストが表示されます。

Client Node

Address:	FE80::DCBB:E1AA:A33F:3D4A
Location:	Unknown
Initial Visit Time:	2015-06-24 09:01:46
Last Visit Time:	2015-07-06 18:08:48

Server List Visited by Node

IP Address	Connection Type	Port	Probe	Locat...	Initial Visit Time	Last Visit Time	Accu...	Toda...
FF02::C	UDP	3702	248en	Unknown	2015-06-25 18:11:52	2015-07-06 18:08:48	140.16KB	21.56KB
FF02::C	UDP	1900	248en	Unknown	2015-06-25 13:30:24	2015-07-06 18:08:48	102.78KB	17.26KB
FF02::1:2	UDP	547	248en	Unknown	2015-06-24 09:01:46	2015-07-06 18:07:48	1.02MB	140.56KB

[CLOSE THE WINDOW](#)

サーバーノードの場合、「ノード情報を修正」をクリックすることでポップアップされたダイアログボックスは、下図のようにそのノードの詳細情報が表示されます。

Server Node

Address	Connectio...	Port	Probe	Location	Initial Visit Time	Last Visit Time	Accumulat...	Accumulat...	Average D...
FF02::C	UDP	1900	248en	Unknown	2015-06-24 14:40:46	2015-07-06 19:24:48	6.05MB	8	333.61KB
FF02::C	UDP	3702	248en	Unknown	2015-06-24 14:40:46	2015-07-06 18:20:48	1MB	10	75.47KB
FF02::C	UDP	1900	C-248	Unknown	2015-06-25 09:29:24	2015-06-25 15:12:51	13.5KB	2	

[CLOSE THE WINDOW](#)

サーバーノードであり、クライアントノードでもあるノードの場合、「ノード情報を修正」をクリックすることでポップアップされたダイアログボックスは、下図のようにサーバーとしてのノード情報、クライアントとしてのノード情報、およびクライアントとしてアクセスしたサーバーリストが表示されます。

Server Node (Also Client Node)

Node Information as a Server

Address	Connectio...	Port	Probe	Location	Initial Visit Time	Last Visit Time	Accumula...	Accumula...	Average D...
10.141.165.202	TCP	2425	199hk	Unknown	2015-10-19 16:14:55	2015-10-19 16:16:55	1.76KB	1	
10.141.165.202	TCP	1812	199hk	Unknown	2015-10-19 16:14:55	2015-10-19 16:16:55	2.91KB	1	
10.141.165.202	TCP	80	199hk	Unknown	2015-10-19 16:14:55	2015-10-19 16:16:55	305.07KB	9	
10.141.165.202	TCP	9999	199hk	Unknown	2015-10-19 16:14:55	2015-10-19 16:16:55	568.34KB	271	

Node Information as a Client

Address:	10.141.165.202
Location:	Unknown

[CLOSE THE WINDOW](#)

3. アプリケーションを追加:

このボタンをクリックすることで、選択したサーバーノードをアプリケーションとして迅速に追加することができます。「アプリケーションを追加」をクリックして、「アプリケーションタイプを選択」ダイアログボックスが表示されます。通常接続、ロング接続と二重非同期ロング接続からアプリケーションタイプを選択し、選択されたノードのIPアドレスとポートをルールとして、アプリケーションを追加します。

4. アプリケーションに追加:

このボタンをクリックすることで、選択したサーバーノードを既存のアプリケーションに追加することができます。「アプリケーションに追加」をクリックして、「アプリケーションに追加」ダイアログボックスが表示されます。ドロップダウンリストからアプ

リケーションを選択し、選択されたサーバーノードの IP アドレスとポートを新しいルールとしてアプリケーションに追加します。

5. 表示:

クライアントノードの場合、このボタンをクリックすると、このノードのサーバーノードだけが表示されます。

サーバーノードの場合、このボタンをクリックすると、このノードのクライアントノードだけが表示されます。

サーバーノードであり、クライアントノードでもあるノードの場合、このボタンをクリックして、ユーザーはこのノードのクライアントノード、このノードのサーバーノードまたはこのノードと接続したすべてのノードを表示することができます。

6. 隠す:


このボタンをクリックして、このノード、またはこのノードおよびこのノードと接続したすべてのノードを隠すことができます。

左側にある表示ボタンをクリックして、隠しノードリストが表示されます。ここですべての隠しノードを確認し、隠されたノードをまた表示にすることができます。

サービスアクセスリスト

サービスアクセスリストはプローブが取得したサービスアクセス情報を表示し、以下のような項目が含まれています。

項目	説明
IP アドレス	サーバーの IP アドレスです。
ポート	サービスを提供するポートです。一つのサーバーは複数のサービスポートを提供することができます。
アプリケーション	アプリケーションの名前を表示します。初期状態では、すべてのアプリケーションは「不明」となります。このアクセスがアプリケーションとして追加された後、アプリケーション名がリストに表示されます。
操作	ユーザーは追加されたアプリケーションに対して、「ビジネスに追加」、「アプリケーションを修正」、および「アプリケーションを削除」という三つの操作を行うことができます。
ジオロケーション	サーバーのジオロケーション情報です。
クライアント数	サーバーと対応するクライアント数です。
最初のアクセス時間	このサービスアクセスを初めてキャプチャーした時間です。
最近アクセス時間	このサービスアクセスを最後にキャプチャーした時間です。
累計トラフィック	このサービスアクセスを初めてキャプチャーした以来の累計のトラフィックです。
最近一週間における毎日平均トラフィック	最近一週間において、このサービスアクセスの毎日の平均トラフィックです。

サービスアクセスリストはデフォルトで折りたたんだ状態で、IP アドレス、ポート、アプリケーションおよび操作という四つの項目のみが表示されます。ユーザーは、 ボタンをクリックして、サービスアクセスリストを展開することで、詳細な情報を確認することができます。

サービスアクセス記録を選択して、ユーザーは「アプリケーションを追加」、「アプリケーションに追加」、「クライアントを表示」、および「ノードを削除」という四つの操作を行うことができます。

アプリケーションを追加

「アプリケーションを追加」ボタンをクリックして、「アプリケーションタイプを選択」ダイアログボックスが表示されます。通常接続、ロング接続と二重非同期ロング接続からアプリケーションタイプを選択し、選択されたサービスアクセス記録の IP アドレスとポートをルールとして、アプリケーションとして追加します。

アプリケーションに追加

「アプリケーションに追加」ボタンをクリックして、「アプリケーションに追加」ダイアログボックスが表示されます。ドロップダウンリストからアプリケーションを選択し、選択されたサービスアクセス記録の IP アドレスとポートを新しいルールとして既存のアプリケーションに追加します。

クライアントを表示

「クライアントを表示」ボタンをクリックして、下図のように「すべてのクライアント」ダイアログボックスが表示されます。ユーザーは IP アドレス、ポート、プローブ、接続タイプ、最初のアクセス時間、最近アクセス時間、累計トラフィック、今日のトラフィック、およびジオロケーションなどを含め、このサーバーと接続したすべてのクライアントの情報を確認することができます。

All Clients									
IP Address	Port	Probe	Connection Type	Initial Visit Time	Last Visit Time	Accumulated Traffic	Today's Traffic	Location	
FE80::29CE:43A4:AAD:71A4	3702	248en	UDP	2015-06-24 14:53:46	2015-07-06 18:20:48	45.82KB	8.09KB	Unknown	
FE80::DCBB:E1AA:A33F:3D4A	3702	248en	UDP	2015-06-25 18:11:52	2015-07-06 18:08:48	140.16KB	21.56KB	Unknown	
FE80::E00D:1CD8:52B:3378	3702	248en	UDP	2015-06-24 17:28:24	2015-07-06 17:52:48	137.46KB	18.87KB	Unknown	
FE80::A5D5:8B06:E9D0:9FB2	3702	248en	UDP	2015-06-26 10:22:52	2015-07-06 17:25:48	37.73KB	5.39KB	Unknown	
FE80::349E:7604:E2BA:FCE1	3702	248en	UDP	2015-06-24 15:01:46	2015-07-06 16:33:48	169.8KB	10.78KB	Unknown	
FE80::21F6:2510:BF9D:5C2F	3702	248en	UDP	2015-06-24 14:40:46	2015-07-06 16:29:48	355.78KB	35.04KB	Unknown	
FE80::8D28:9CCA:1589:C7C4	3702	248en	UDP	2015-06-24 15:49:24	2015-07-06 15:38:48	126.68KB	8.09KB	Unknown	
FE80::38EF:4BB0:9FD7:73AE	3702	248en	UDP	2015-07-06 09:29:37	2015-07-06 09:29:37	2.7KB	2.7KB	Unknown	
FE80::BD03:3639:2CFB:887C	3702	248en	UDP	2015-07-01 15:08:19	2015-07-01 15:18:20	5.39KB	0B	Unknown	
FE80::8178:EF2A:3CED:5C37	3702	248en	UDP	2015-06-29 16:39:19	2015-06-29 16:39:19	2.7KB	0B	Unknown	

CLOSE THE WINDOW

ノードを削除

「ノードを削除」ボタンをクリックして、アクセス関係図からこのノードを削除します。同時にサービスアクセスリストにあるこのノードのアクセス記録も削除されます。

一方、追加されたアプリケーションに対して、「ビジネスに追加」、「アプリケーションを修正」、および「アプリケーションを削除」という三つの操作を行うことができます。


ビジネスに追加

以下のステップに従い、追加されたアプリケーションを既存のビジネスに追加することができます。


1. **+** ボタンをクリックして、「ビジネスに追加」ダイアログボックスが表示されます。ド

- ロップダウンリストからビジネスを一つ選択します。
2. OK をクリックして、ビジネスロジックチャートの設定ページへ移動します。
 3. システムはデフォルトで自動的にサーバーノードを追加し、選択されたアプリケーションを選択します。ユーザーはノード名を入力し、メインプローブと関連ビジネスを選択すればよいのです。
 4. OK をクリックして、アプリケーションをビジネスに追加する操作を完了します。

アプリケーションを修正

 ボタンをクリックして、「アプリケーションを修正」ダイアログボックスが表示されます。ユーザーは名前、説明、およびアプリケーションルールを修正することができます。アプリケーションタイプを修正するには、まずすべてのアプリケーションルールを削除する必要があります。

アプリケーションを削除

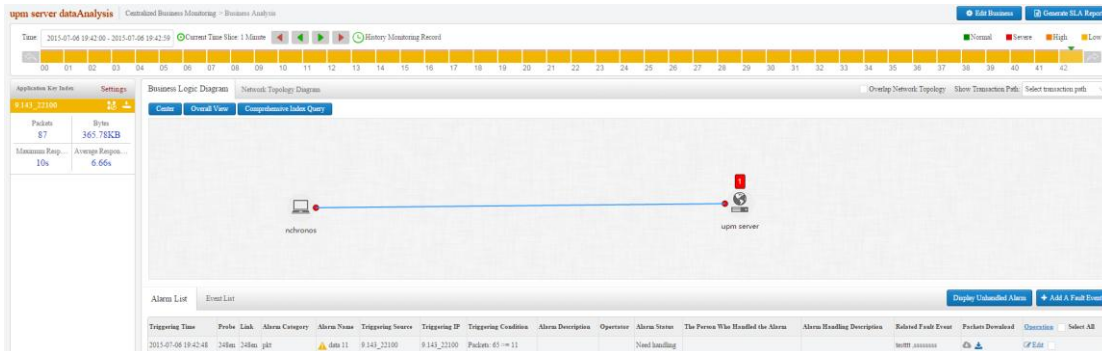
 ボタンをクリックして、ユーザーは選択したアプリケーションを削除することができます。同時に、アクセス記録もサービスアクセスリストから削除されます。

ビジネス解析

この章はビジネスを解析する詳しい情報について紹介します。

ビジネス解析ページ

ビジネス監視ページで、解析したいビジネスを選択して、ポップアップされたメニューで「解析」をクリックすることで、下図のようにビジネス解析ページに入ります。

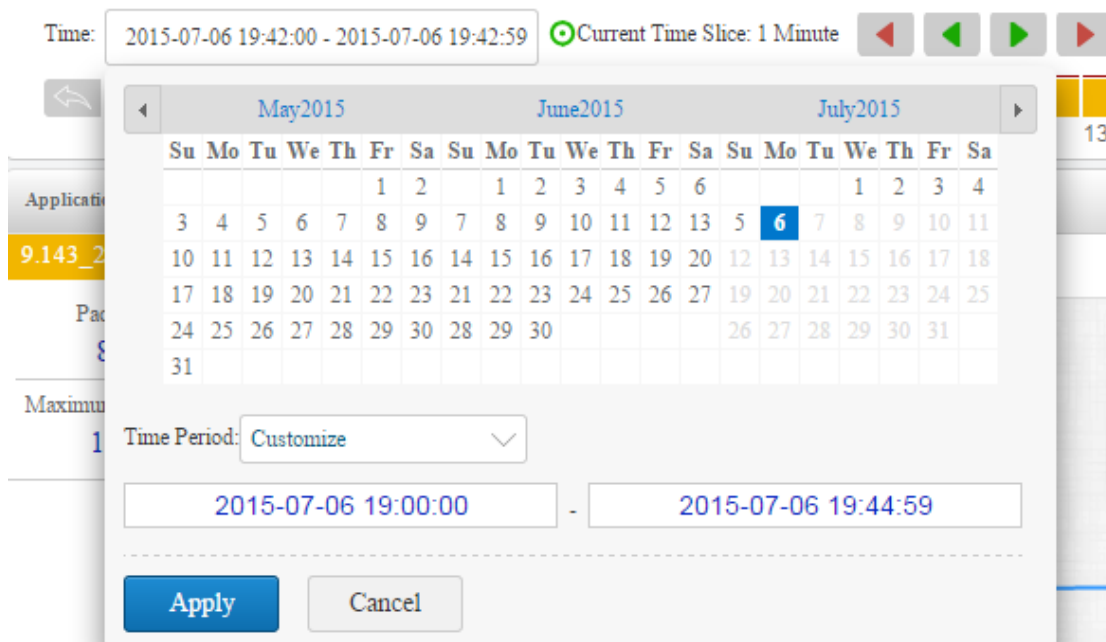


ビジネスアラーム状態

ビジネスアラーム状態図は選択された時間範囲における各タイムスライスでビジネスの運行状態を表示します。タイムスライスが緑と表示される場合、それはこのタイムスライスでビジネスが正常に運行され、トリガーされたアラームがないことを表します。一方緑と表示されない場合、それはこのタイムスライスで異常が発生し、アラームがトリガーされたことを表します。

時間範囲を設定

ビジネスを解析する時、時間範囲を設定することができます。デフォルトではビジネスの集中監視ページにおける監視サイクルがビジネス解析の時間範囲となります。ユーザーは時間範囲をカスタマイズすることができます。時間テキストボックスをクリックして、下図のように時間範囲を設定するダイアログボックスが表示されます。





最小時間範囲は1時間で、最大時間範囲は1か月です。ビジネスアラーム状態図はユーザー定義の時間範囲をより小さいタイムスライスに分割します。ユーザーは異なるタイムスライスを選択し、ビジネスを解析することができます。


「現在時間目盛り」はビジネスアラーム状態図における各タイムスライスの時間範囲を表します。


時間選択ボタン


ビジネスアラーム状態図にはいくつかの時間選択ボタンがあります。以下はそれらのボタンについて説明しています。


 :前のタイムスライスへ。このボタンをクリックすると、ビジネスアラーム状態図は前のタイムスライスに入ります。


 :次のタイムスライスへ。このボタンをクリックすると、ビジネスアラーム状態図は次のタイムスライスに入ります。


 :前のアラームタイムスライスへ。このボタンをクリックすると、ビジネスアラーム状態図は自動的にトリガーされたアラームがある前のタイムスライスに入ります。

 :次のアラームタイムスライスへ。このボタンをクリックすると、ビジネスアラーム状態図は自動的にトリガーされたアラームがある次のタイムスライスに入ります。

 :前の時間帯。このボタンをクリックすると、ビジネスアラーム状態図は前の同じ時間帯に入ります。例えば現在時間帯は8月の場合、このボタンをクリックすると、ビジネスアラーム状態図は7月に入ります。

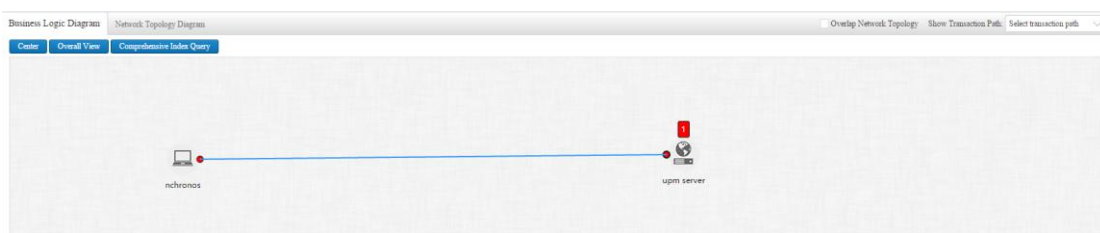
 :次の時間帯。このボタンをクリックすると、ビジネスアラーム状態図は次の同じ時間帯に入ります。例えば現在時間帯は8月の場合、このボタンをクリックすると、ビジネスアラーム状態図は9月に入ります。

 :拡大。このボタンをクリックすると、選択されたタイムスライスは拡大されます。例えば、選択されたタイムスライスのメモリが24時間の場合、このボタンをクリックすると、選択されたタイムスライスのメモリは24時間から1時間になります。

 :縮小。このボタンをクリックすると、選択されたタイムスライスは縮小されます。例えば、選択されたタイムスライスのメモリが1時間の場合、このボタンをクリックすると、選択されたタイムスライスのメモリは1時間から24時間になります。

ビジネスロジックチャート

ビジネスロジックチャートは下図のように選択されたタイムスライスにおけるビジネスの運行状態を表示します。



マウスをビジネスロジックチャートに移動し、マウスホイールを通じて、ユーザーはビジネスロジックチャートにおけるノードを拡大したり、縮小したりすることができます。ビジネスロジックチャートの左上のところに3つのボタンがあります。以下はボタンの機能について説明しています。

中央揃え: ビジネスロジックチャートを中央に表示します。

全体図: ビジネスロジックチャートですべてのノードを表示します。ビジネスロジックチャートにおけるノードがたくさんある場合、このボタンをクリックすると、システムは自動的にノードを縮小します。

総合指標のクエリ: このボタンをクリックすると、総合指標のクエリページへ移動します。

ノード情報を表示

ビジネスロジックチャートにおいて、ユーザーはノード情報とアラーム情報を確認することができます。

ビジネスロジックチャートであるノードをクリックして、下図のようにノード情報ダイアログボックスがポップアップされます。



The dialog box displays the following information:

- Node Name:** nchronos
- Node Type:** Client
- Node Description:** Client Interface-192.168.9.248

IP Address	Alarms
192.168.9.248	0

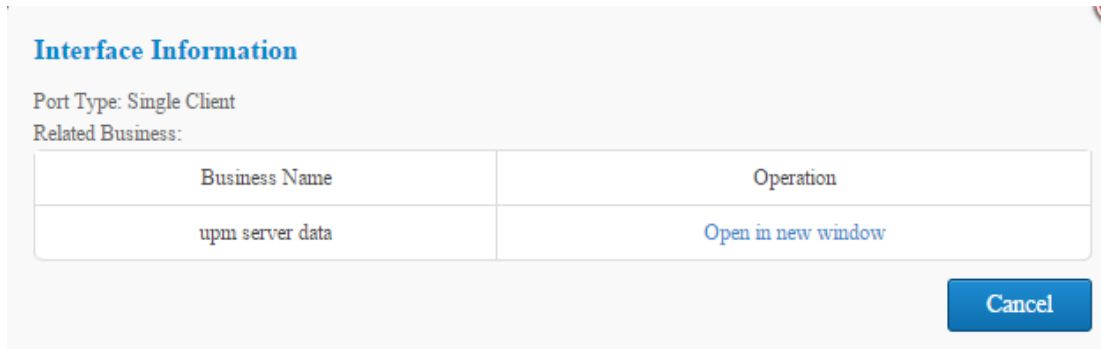
A "Cancel" button is located at the bottom right of the dialog box.

ノード情報ダイアログボックスには、ノード名、ノード説明、そのノードのために追加されたインターフェース、および各インターフェースの IP アドレスとトリガーされたアラーム数が表示されます。

ビジネストランザクションパスとビジネスロジックチャートのノードにおける数字はトリガーされたアラームの数を表します。

インターフェース情報を表示

ビジネスロジックチャートにおけるノードのインターフェースをクリックして、下図のようにインターフェースの詳細情報を確認することができます。



インターフェース情報にはインターフェースタイプ、アプリケーション名、アプリケーションルール、およびそのインターフェースの関連ビジネスが含まれています。ユーザーは新しいウィンドウで関連ビジネスを解析することができます。

ネットワークトポロジを重ねる

ユーザーはビジネスロジックチャートにネットワークトポロジを重ね、ロジックから物理まで比較を行うことができます。

「ネットワークトポロジを重ねる」にチェックを入れることで、ビジネスロジックチャートにネットワークトポロジを重ねることができます。ネットワークトポロジを重ねる前に、ネットワークトポロジをUPMセンターにインポートする必要があります。

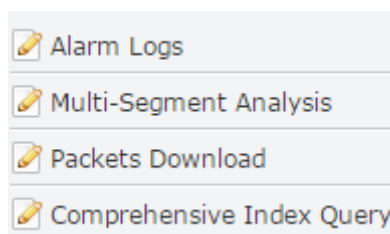
ビジネストランザクションパスを表示

ビジネスロジックチャートでビジネストランザクションパスを確認することができます。ビジネストランザクションパスを確認することで、ユーザーはこのトランザクションが故障ノードに影響されているかどうかを簡単に分析することができます。

ユーザーはドロップダウンリストから一つ、複数、または全てのトランザクションパスを表示したり、すべてのトランザクションパスを隠したりすることができます。

ショートカット

ビジネスロジックチャートにおいて、いくつかのショートカットがあります。ビジネストランザクションパスをクリックして、下図のようなメニューが表示されます。



以下はこのメニューにおける各アイテムについて説明しています。

- アラームログ: このアイテムをクリックすると、下側にあるアラームリストはこのビジネストランザクションパスと関連しているアラームログだけを表示します。
- マルチセグメント解析: このビジネストランザクションパスのマルチセグメント解析ページへ移動します。
- パケットをダウンロード: 関連アプリケーションのパケットをダウンロードするページへ移動します。パケットファイルフォーマットは、rawpkt または、pcap から選択す

ることができます。

- 総合指標のクエリ: 関連アプリケーションの総合指標のクエリというページへ移動します。

ネットワークトポロジー



ネットワークトポロジーは、実際のネットワーク環境におけるビジネスのネットワークトポロジーで、ユーザーによって描かれています。ユーザーはネットワークトポロジーをUPMセンターにインポートし、ビジネスロジックチャートに重ね、比較を行うことができます。

ネットワークトポロジーページにはインポートボタンと削除ボタンがあります。

- インポート: ネットワークトポロジーをUPMセンターにインポートします。
- 削除: インポートされたネットワークトポロジーを削除します。ネットワークトポロジーがビジネスロジックチャートに重なっている場合、そのネットワークトポロジーを削除するには、まず「ネットワークトポロジーを重ねる」にチェックを外す必要があります。

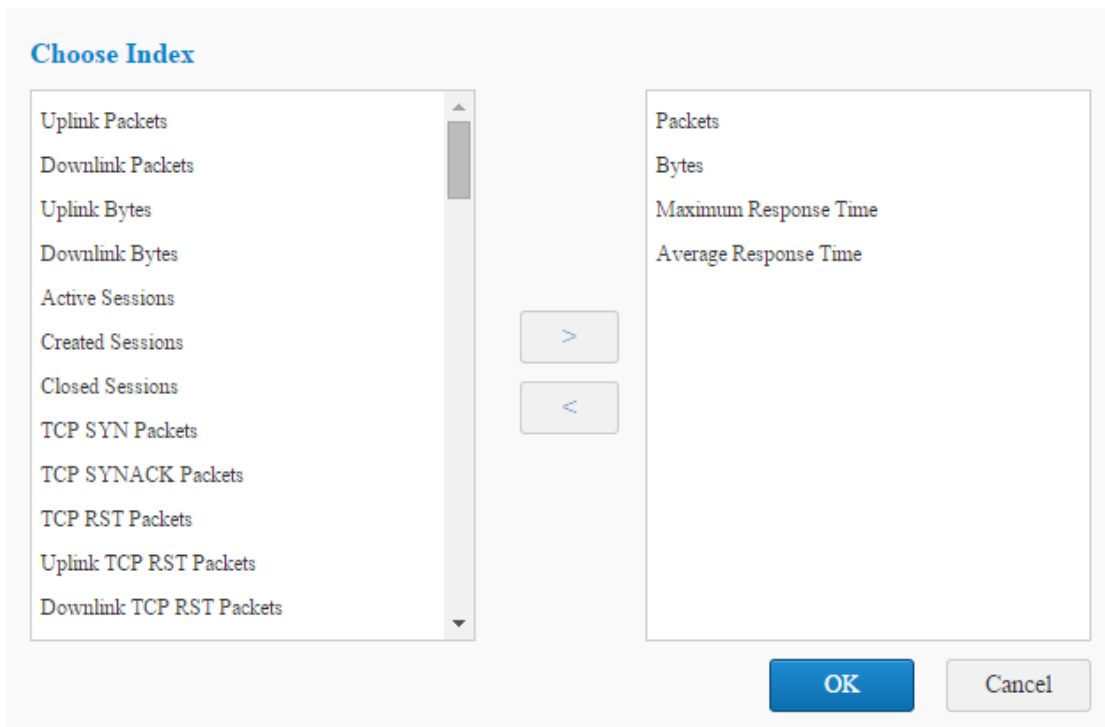
アプリケーション重要指標

アプリケーション重要指標パネスには、下図のように選択された時間範囲における各アプリケーションの指標を表示します。

Application Key Index		Settings
9.143_22100		 
Packets	Bytes	
84	333.82KB	
Maximum Resp...	Average Respon...	
10s	7.49s	



アプリケーション重要指標を設定

UPM センターはたくさんのアプリケーション指標を提供しますが、デフォルトでアプリケーション重要指標パネルには四つの指標だけを表示します。他の指標を表示するには、「設定」をクリックして、下図のように指標グループダイアログボックスが表示されます。ここで表示したい指標を四つ選択することができます。



ショートカット

「アプリケーション重要指標」パネルには、いくつかのショートカットがあります。以下はそのショートカットについて説明しています。

- 「アプリケーション重要指標」パネルであるアプリケーションをクリックすることで、アラームリストはそのアプリケーションと関連しているアラームログだけを表示します。
-  ボタンをクリックして、このアプリケーションの総合指標のクエリページへ移動します。
-  ボタンをクリックして、このアプリケーションの packets をダウンロードするページへ移動します。パケットファイルフォーマットは, rawpkt または, pcap から選択することができます。

アラームリスト

アラームリストはある時間帯における特定のアプリケーションまたは特定のビジネスランザクションパスのアラームログを表示します。その時間帯におけるすべてのアラームログを表示したい場合、アラームリストの右上にある「フィルタリングをキャンセル」ボタンをクリックすればよいのです。

アラームリストは packets をダウンロードするショートカットを提供します。ユーザーは特定のアラームと関連する packets をダウンロードし、更なる解析を行うことができます。

アラームリストは下図のように表示されます。

Triggering Time	Probe Link	Alarm Category	Alarm Name	Triggering Source	Triggering IP	Triggering Condition	Alarm Description	Operator	Alarm Status	The Person Who Handled the Alarm	Alarm Handling Description	Related Fault Event	Packets Download	Operations	Select All
2015-07-06 19:42:48	248m / 248m	glt	dm 11	9.143_22100	9.143_22100	Packets: 65 / -11			Need handling			testm_000000	0	Edit	

Tips マウスをドラッグして、アラームリスト部分の幅を調整することができます。

アラームを処理

UPM はアラームを処理する機能を提供します。アラームリストにおける「処理」ボタンをクリックして、下図のように「アラームを処理」ダイアログボックスが表示されます。

Edit Alarm Information

Alarm Status: Already handled Need handling

The Person Who Handled the Alarm:

Alarm Handling Description:

「アラームを処理」ダイアログボックスで、処理状態を設定し、処理ユーザーと処理に対する説明を入力します。

アラームを処理する時、複数のアラームを同時に処理することができます。

イベントリスト

イベントリストには、下図のようにユーザーが追加されたトラブルイベントが表示されます。

Event Name	Event ID	Start Time of the E...	Duration of the Event	Unit of the Event	Handler	Event Description	Event Handling De...	Suggestion to Hand...	Related Application	Related Alarm	Operation
event1	561ffece4b0d78d...	2015-10-28 10:41:45	10	minute(s)	lm	abnormal access of ...	check setting infor...	check setting infor...			Edit
event2	561ffece4b0d78d...	2015-10-28 10:42:02	10	minute(s)	lm	long connection int...	check the server	check the server	test.v6	pps	Edit

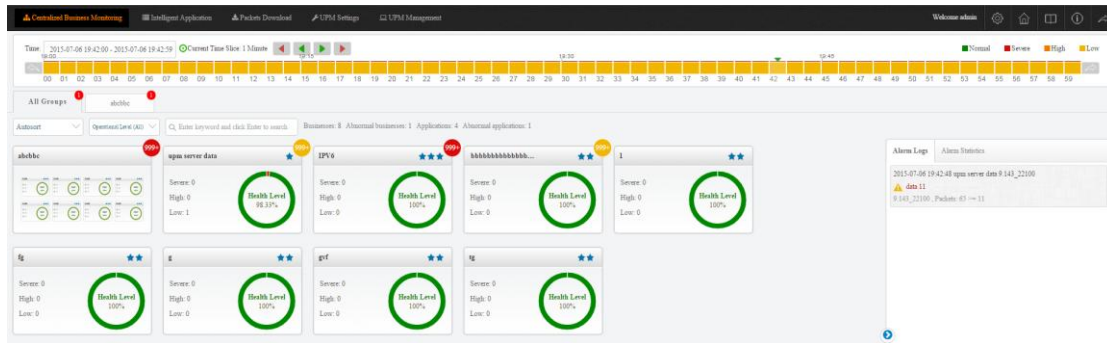
Total 2 record(s) 20 records per page 1

イベントリストの右側にある「トラブルイベントを追加」ボタンをクリックして、「イベントを追加」ページに入ります。ここで、イベントを定義し、追加することができます。

履歴監視記録

UPM センターでは、ユーザーは履歴時間におけるビジネスの運行状態を確認することができます。

ビジネス解析ページの上側にある「履歴監視記録」ボタンをクリックして、下図のように履歴監視記録ページに入ります。



履歴監視記録ページで、ユーザーはアラーム数とアラーム時間などを含め、各ビジネスの履歴運行状態だけを確認することができます。

データの自動更新

ビジネス解析ページはデータの自動更新機能を提供します。この機能を有効にすれば、データは1分ごとに自動的に更新します。この機能を通じて、ユーザーはビジネスの最新データを確認することができます。デフォルトでは、この機能が有効にされていません。

SLA レポートを生成

UPM センターは SLA レポートを提供します。SLA レポートはビジネスとビジネスに属しているアプリケーションの運行時間、故障時間、無故障時間、故障率および無故障率を統計しています。

レポート時間を設定

ビジネス解析ページの右上にある「SLA レポートを生成」ボタンをクリックして、下図のように「SLA レポートを設定」ダイアログボックスが表示されます。

ビジネス名というフィールドは現在ビジネスの名前で、ユーザーにより修正することができません。レポート時間はデフォルトで現在選択された時間帯を表示します。レポート時間の後のテキストボックスをクリックして、下図のように時間範囲選択ダイアログボックスが表示されます。

時間範囲を設定し、「適用」をクリックすることで、ユーザーが設定された時間範囲で SLA レポートを生成します。

SLA レポート内容

レポート時間を設定した後、「OK」をクリックして、下図のように SLA レポートを生成します。

SLA Analysis Report		Print	Save	Send
wyj - SLA Analysis Report				
wyj		Running time: 2014-12-05 13:00:00 - 2014-12-05 13:59:59		Application quantity: 1
Index item	Actual running status			
Fault time	4 m13 s			
Faultless time	55 m47 s			
Fault rate	7.03%			
Faultlessness Rate	92.97%			
qwqwe		Running time: 2014-12-05 13:00:00 - 2014-12-05 13:59:59		
Index item	Actual running status			
Fault time	4 m13 s			
Faultless time	55 m47 s			
Fault rate	7.03%			
Faultlessness Rate	92.97%			
OK				

SLA レポートには以下の情報が含まれています。

- ビジネス名とビジネスに属しているアプリケーション数
- ビジネスの運行時間、故障時間、無故障時間、故障率、および無故障率

- アプリケーションの運行時間、故障時間、無故障時間、故障率、および無故障率

印刷

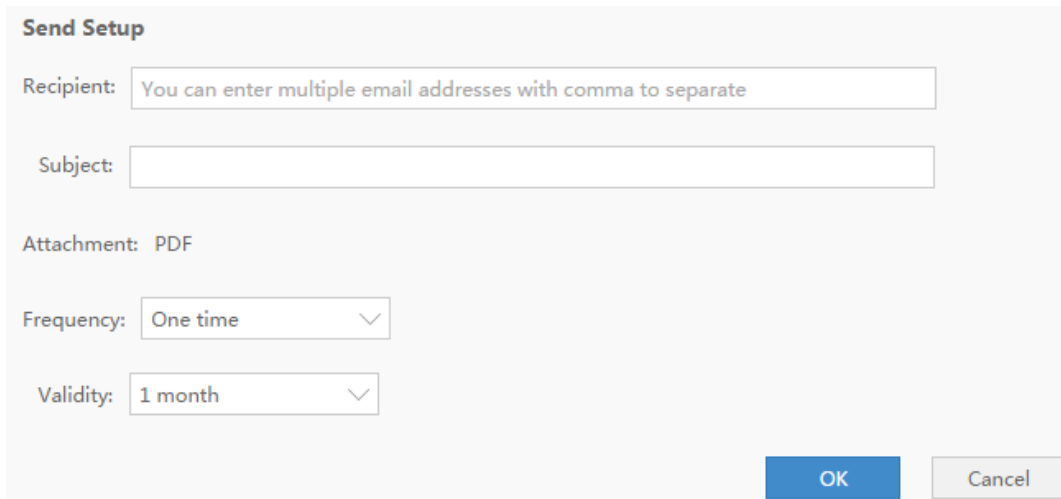
「印刷」ボタンをクリックして、SLA レポートを印刷するプレビューページに入ります。

保存

「保存」ボタンをクリックして、SLA レポートを PDF ファイルに保存します。

送信

「送信」ボタンをクリックして、下図のように送信設定ダイアログボックスに入ります。




The image shows a 'Send Setup' dialog box with the following fields and options:

- Recipient:** A text input field with a placeholder: "You can enter multiple email addresses with comma to separate".
- Subject:** An empty text input field.
- Attachment:** Set to "PDF".
- Frequency:** A dropdown menu currently set to "One time".
- Validity:** A dropdown menu currently set to "1 month".
- Buttons: "OK" (blue) and "Cancel" (grey).

以下のリストは、送信設定ダイアログボックスにおける各アイテムについて説明しています。

- **受信者:** SLA レポートの受信者 E メールアドレスを入力します。複数アドレスの場合、カンマで区切ってください。
- **件名:** SLA レポートの件名を設定します。
- **添付ファイル:** SLA レポートの添付ファイルのフォーマットです。今のところ、PDF フォーマットのみサポートです。
- **頻度:** SLA レポートの頻度を設定します。以下の四つの頻度タイプから選択することができます。
 - **一回:** 一回に指定すると、有効期間を設定することができません。同時にこの SLA レポートはすぐに送信されます。
 - **毎日:** 毎日に指定すると、この SLA レポートは有効期間内で日に一度送信されます。
 - **毎週:** 毎週に指定すると、この SLA レポートは有効期間内で週に一回送信されます。ユーザーは送信する曜日を指定することができます。
 - **毎月:** 毎月指定すると、この SLA レポートは有効期間内でつきに一回送信されます。ユーザーは毎月のどの日に送信することを設定することができます。
- **有効期間:** SLA レポートを定期送信する有効期間です。1 か月から 1 2 か月まで選択することができます。

 **Tips** 定期送信するレポートを延期、または削除したい場合、UPM 設定->SLA レポート送信をクリックして、設定することができます。

ビジネスを設定

この章では、新規ビジネスを追加、設定する方法について説明しています。

専門用語

ビジネスを追加、設定する前に、これに関する専門用語について説明しています。

- **ビジネスロジックチャート**
ビジネスロジックチャートはビジネスにおけるアプリケーション間のロジック関係を表示します。
- **ノード**
ビジネスロジックチャートの構成要素で、サーバーノード、クライアントノードおよび中間のノード（サーバーノードであり、クライアントノードでもある）という3つのタイプがあります。
- **インターフェース**
インターフェースはノードに結び付けられています。アプリケーションインターフェースとクライアントインターフェースという2つのタイプがあります。ノードにアプリケーションインターフェースだけが設定された場合、このノードはサーバーノードです。ノードにアプリケーションインターフェースもクライアントインターフェースも設定された場合、このノードは中間ノード（サーバーノードであり、クライアントノードでもある）です。ノードにクライアントインターフェースだけが設定された場合、このノードはクライアントノードです。一つのノードには多くとも16のインターフェースしか設定できません。ノードにおけるインターフェースの位置を設定することもできます。
- **アプリケーション**
アプリケーションはビジネスを構成する基本要素です。一つのビジネスは、一つまたは複数のアプリケーションから構成されています。一つのアプリケーションは一つのアプリケーションインターフェースと対応しています。アプリケーションを追加するのは、ノードにアプリケーションインターフェースを追加することです。
- **メインプローブ**
メインプローブはアプリケーションに関するデータを統計し、アップロードします。一つのアプリケーションには、一つのメインプローブを指定する必要があります。
- **スナップショット**
スナップショットはビジネスロジックチャートの利用可能なコピーです。スナップショットをインポートとエクスポートすることができます。
- **アプリケーション通信パス**
アプリケーションサーバーとクライアントの間の通信パスです。アプリケーション通信パスには、プローブ、ファイアウォール、ルータ、スイッチなどのネットワークデバイスがあります。

- **ビジネストランザクションパス**

一つのビジネスには複数のタイプのトランザクションがあります。ビジネストランザクションパスは、ビジネスにおけるトランザクションが通過するサーバーとクライアントを表します。一つのトランザクションパスは一つまたは複数のアプリケーションを通過する可能性があります。

ビジネスを定義

ビジネスを定義するページでは、下図のようにビジネスの基本的な情報を設定することができます。

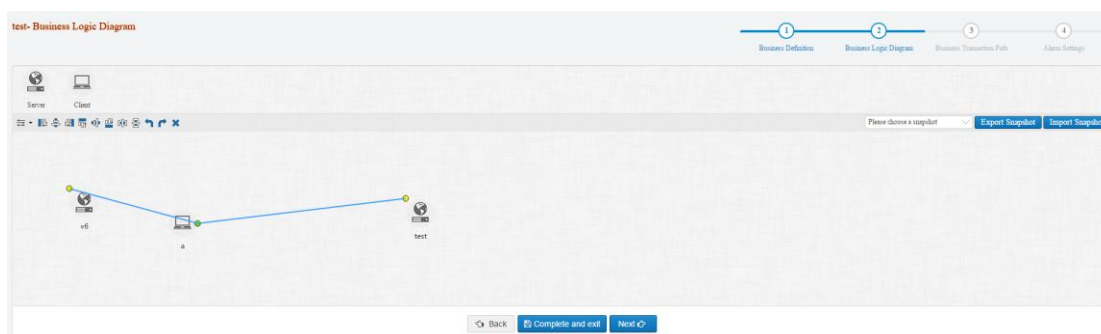
ビジネスには以下の基本的な情報が含まれています。

- **名前:** ビジネスの名前を設定します。ビジネスの名前は既存のビジネス名と重複することができません。
- **運用保守レベル:** ビジネスの運用保守レベルを選択します。低 (★)、中 (★★)、高 (★★★) から選択することができます。
- **説明:** ビジネスに関する説明、または備考情報を設定します。
- **ビジネスグループ:** ビジネスが属するビジネスグループを指定します。ビジネスグループを指定しない場合、「すべてのグループ」にグループ分けされます。

基本情報を設定した後、「次へ」をクリックすることで、ビジネスロジックチャートを設定するページに入ります。

ビジネスロジックチャート

ビジネスロジックチャートは下図のように表示されます。



ノードタイプ

ビジネスロジックチャートを設定するページにはサーバーノードとクライアントノードという2つのノードタイプがあります。一つのノードにMax 16個のインターフェースを設定できます。

サーバー

サーバーノードに5つのタイプのインターフェースを追加することができます。その中の一つはアプリケーションインターフェースである必要があります。アプリケーションインターフェースを追加する場合、アプリケーションのためにメインプローブを選択する必要があります。

- **通常アプリケーションサーバーインターフェース**

通常のアプリケーションインターフェースで、ユーザーはドロップダウンリストから追加された通常アプリケーションを選択し、または新しいアプリケーションを追加することができます。

- **ロング接続アプリケーションサーバーインターフェース**

ロング接続のアプリケーションインターフェースで、ユーザーはドロップダウンリストから追加されたロング接続アプリケーションを選択し、または新しいアプリケーションを追加することができます。

- **二重非同期ロング接続アプリケーション**

二重非同期ロング接続アプリケーションのインターフェースで、ユーザーはドロップダウンリストから追加された二重非同期ロング接続アプリケーションを選択し、または新しいアプリケーションを追加することができます。

- **単一クライアントインターフェース**

クライアントが単一 IP アドレスであることを表します。複数 IP アドレスの場合、カンマで区切ってください。

- **追加されたクライアントインターフェース**

クライアントが追加された IP アドレスであることを表します。追加されたクライアントはアプリケーションを整理する時、またはアプリケーション管理ページでアプリケーションを追加する時に追加された可能性があります。

クライアント

クライアントノードに4つのタイプのインターフェースを追加することができます。

- **単一クライアントインターフェース**

クライアントが単一 IP アドレスであることを表します。複数 IP アドレスの場合、カンマで区切ってください。

- **セグメントクライアントインターフェース**

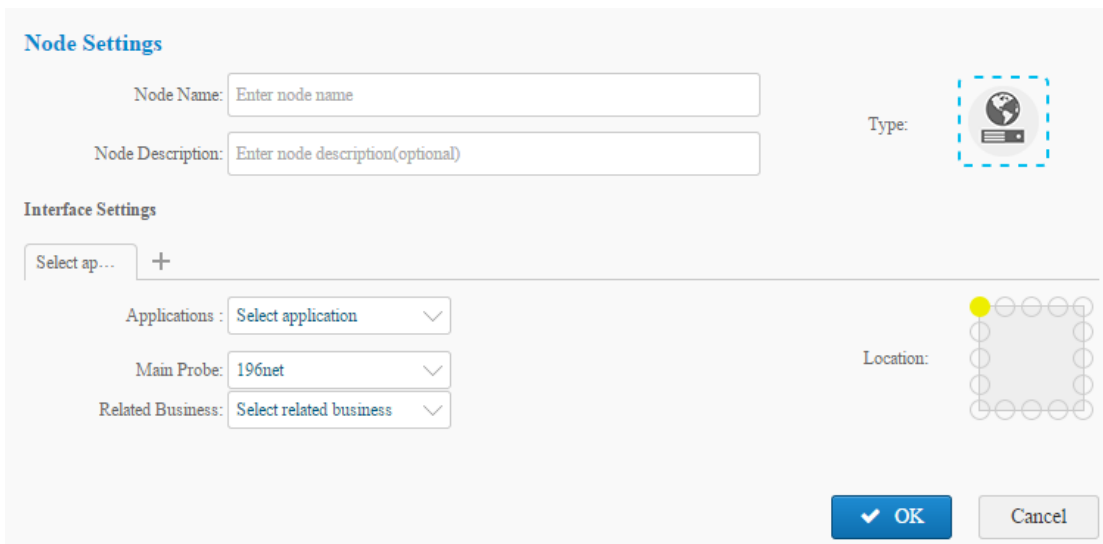
クライアントがセグメントであることを表します。ドロップダウンリストから既存のセグメントを選択したり、新しいセグメントを追加したりすることができます。

- **すべてのクライアント**
 クライアントがすべての IP アドレスであることを表します。ユーザーは IP アドレスを設定する必要がありません。ノードにおけるインターフェースの位置を選択すればよいのです。
- **追加されたクライアントインターフェース**
 クライアントが追加された IP ドレスであることを表します。追加されたクライアントはアプリケーションを整理する時、またはアプリケーション管理ページでアプリケーションを追加する時に追加された可能性があります。

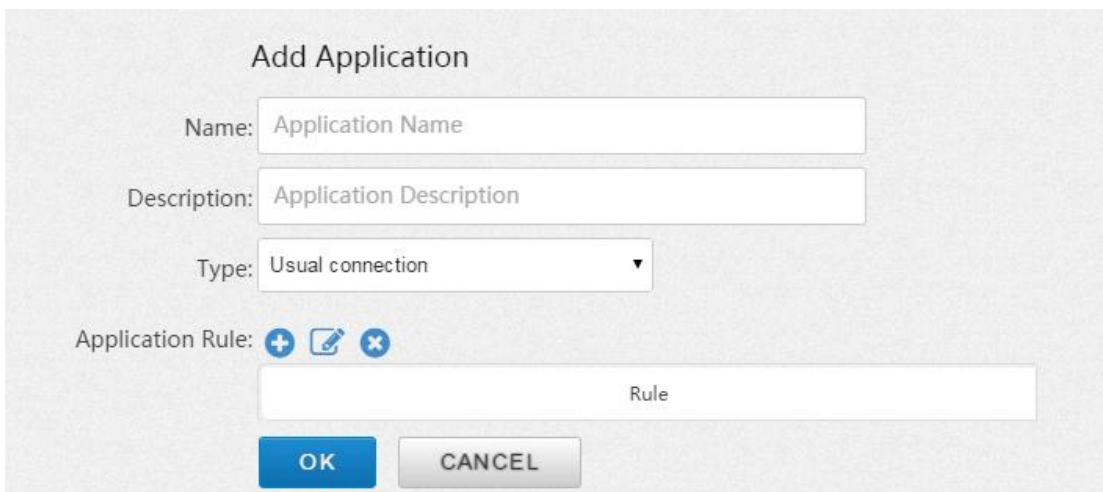
ビジネスロジックチャートを設定

以下のステップに従い、ビジネスロジックチャートを設定します。

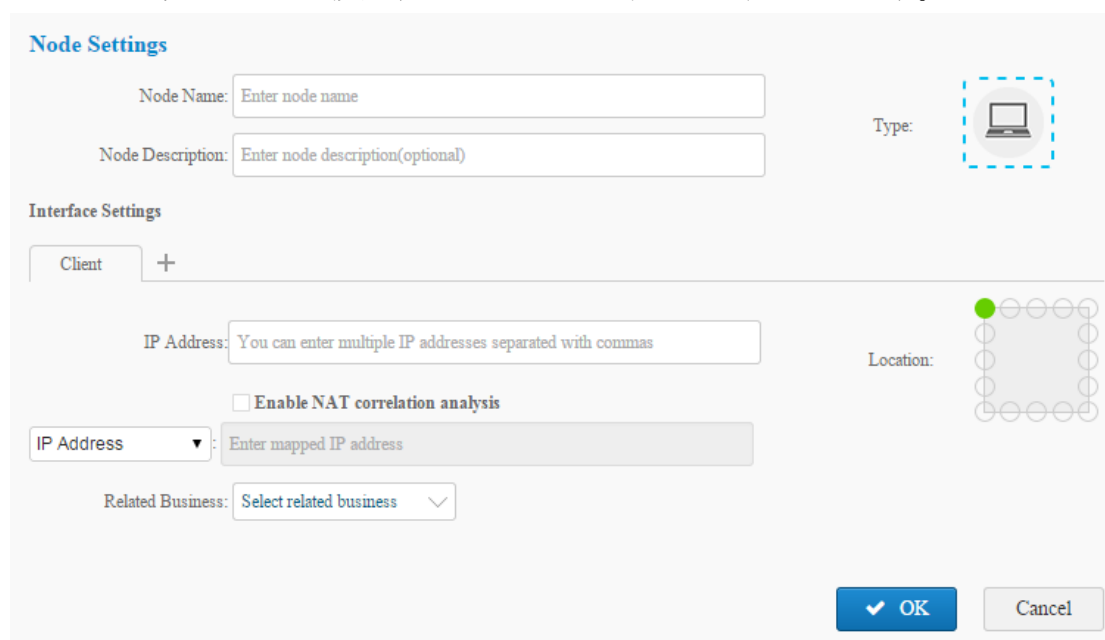
1. サーバーノードを追加します。
 - i. サーバーノードを選択し、描画エリアにドラッグすることで、下図のようにノードを設定するダイアログボックスが表示されます。



- ii. ノード名とノード説明を入力します。
 - iii. サーバーノードのアイコンを選択します。
2. アプリケーションを設定します。

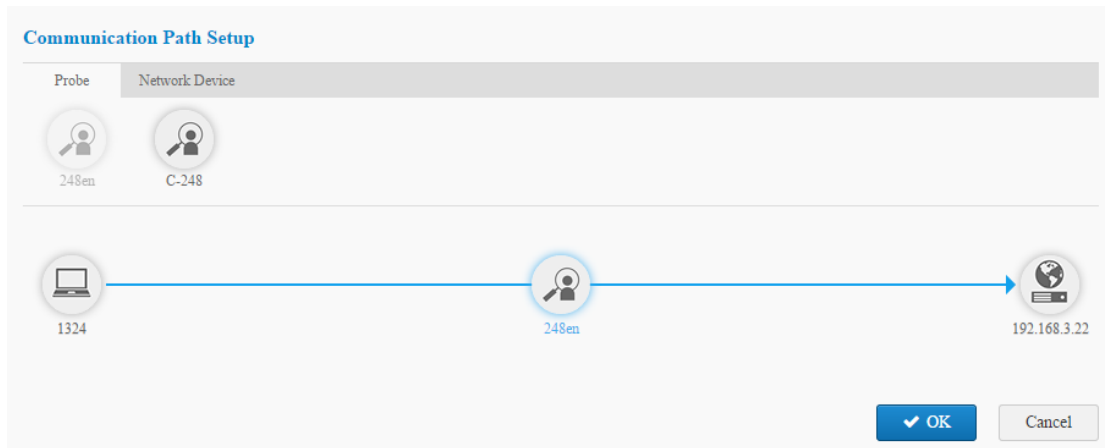


- i. ドロップダウンリストから既存のアプリケーションを選択したり、新しいアプリケーションを追加したりします。新しいアプリケーションを追加する方法については、「UPM 設定」における「アプリケーション管理」部分をご参照ください。
 - ii. アプリケーションのメインプローブを設定します。
 - iii. ドロップダウンリストから追加されたプローブを選択することができます。ドロップダウンリストにはプローブがない場合、「プローブ管理」ページでプローブを追加する必要があります。
 - iv. アプリケーションの関連ビジネスを設定します。ドロップダウンリストから関連ビジネスを選択することができます。
 - v. ノードにおけるインターフェースの位置を設定します。必要に応じて、デフォルトの位置を変更することができます。
3. クライアントノードを追加します。
- i. クライアントノードを選択し、描画エリアにドラッグすることで、下図のようにノードを設定するダイアログボックスが表示されます。



- ii. ノード名とノード説明を入力します。
 - iii. クライアントノードのアイコンを選択します。
 - iv. クライアントのタイプを選択します。単一クライアント、セグメントクライアント、すべてのクライアント、追加されたクライアントから選択することができます。セグメントクライアントを例にします。
 - v. ドロップダウンリストから既存のセグメントを選択したり、新しいセグメント追加したりすることができます。新しいセグメントを追加する方法について、「UPM 設定」における「ネットワークセグメント管理」をご参照ください。
 - vi. 関連のビジネスを選択して、ノードにおけるこのクライアントインターフェースの位置を設定します。
4. アプリケーション通信パスを追加します。
- i. アプリケーションインターフェースとクライアントインターフェースを接続

して、下図のように通信パスを設定するダイアログボックスが表示されます。



- ii. プローブとネットワークデバイスを追加します。ネットワークデバイスを追加する場合、ドロップダウンリストから追加されたネットワークデバイスを選択したり、新しいネットワークデバイスを追加したりすることができます。新しいネットワークデバイスを追加するダイアログボックスは下図のように表示されます。

Network Device Information

Device Name:

Device Description:

Description:

IP:

MAC Address:

Geo Location:

5. 設定済みのビジネスロジックチャートは下図のように表示されます。



ビジネスロジックチャートを設定した後、「次へ」をクリックして、ビジネスストラテジックパスを設定するページに入ります。

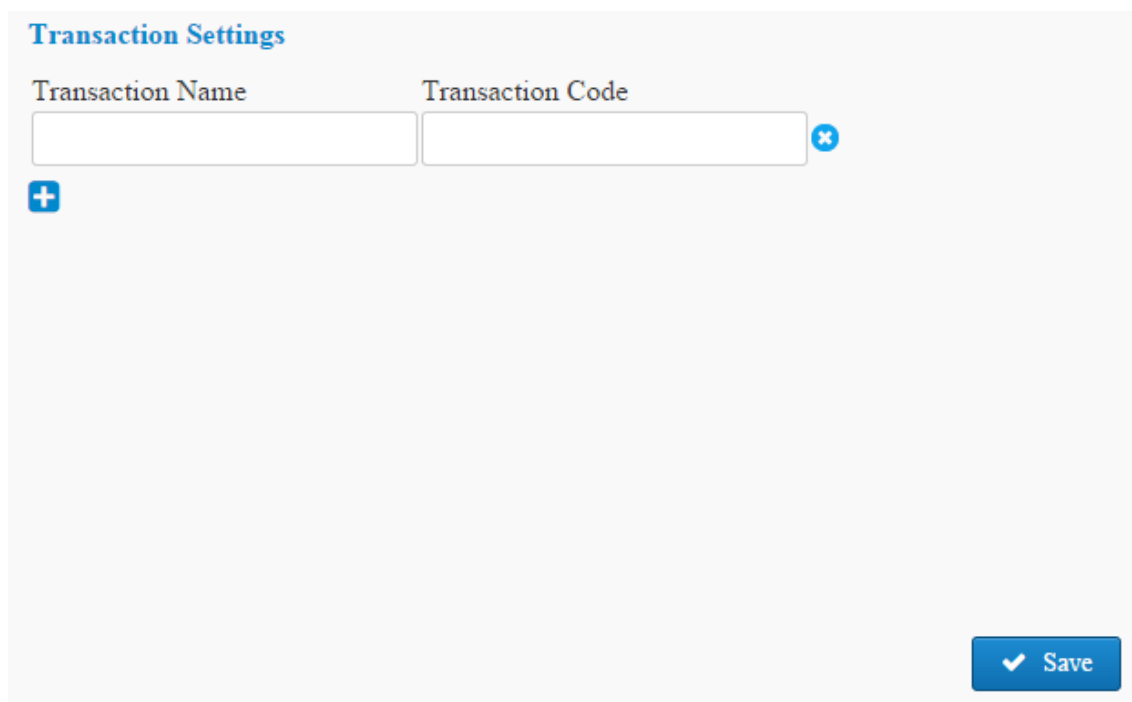
ビジネストランザクションパス

トランザクションパスを設定するページで、「ビジネストランザクションパスを追加」ボタンをクリックして、下図のように設定インターフェースに入ります。

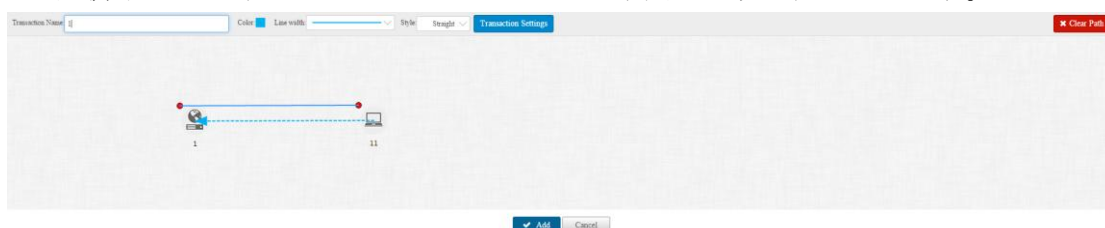


以下のステップに従い、ビジネストランザクションパスを追加します。

1. トランザクションの名前、色、線幅、スタイルを指定します。トランザクション名は唯一である必要があります。
2. 「トランザクション設定」ボタンをクリックして、下図のようにトランザクションを設定するダイアログボックスが表示されます。



3. トランザクション名とトランザクションコードを設定します。一つのビジネスには、トランザクション名とトランザクションコードは重複することができません。
4. ビジネスロジックチャートでトランザクションが通過するサーバーノードとクライアントノードを順番にクリックします。システムはクリックされた順番により、サーバーノードとクライアントノードをトランザクションパスとして接続します。設定済みのビジネストランザクションパスは下図のように表示されます。



5. 「追加」をクリックして、ビジネストランザクションパスの追加を完了します。ビジ

ネストランザクションパスリストには、下図のようにこのビジネスに追加されたすべてのランザクションパスが表示されます。

Show	Operation	Transaction Name	Nodes Included
<input type="checkbox"/>		1	11.1

「表示」カラムにチェックを入れることで、ビジネスロジックチャートでこのランザクションパスを確認することができます。「操作」カラムにおけるボタンをクリックすることで、追加されたランザクションパスを修正したり、削除したりすることができます。

ビジネスランザクションパスの設定を完了した後、「次へ」をクリックして、アラーム設定ページに入ります。

アラームを設定

アラームを設定するページでは、下図のようにアプリケーションに関するアラームを設定することができます。

Operation	Alarm Name	Alarm Severity	Alarm Category	Alarm Type	Address/Network Segment	Time Bucket	Description
	den 11	Low	pit	Application Alarm	NA	1	

アラームを追加

「アラームテンプレートを選択」ボタンをクリックして、アラームテンプレートを選択するダイアログボックスが表示されます。ユーザーは左側で選択されたアプリケーションまたはクライアントインターフェースのためにアラームテンプレートを選択することができます。アラームテンプレートは事前定義のアラームページで事前に追加されたものです。

「アラームを追加」ボタンをクリックして、アラームを追加するダイアログボックスが表示されます。追加できるアラームタイプは左側での選択によって異なります。


- アプリケーションインターフェースを選択した場合、アプリケーション監視アラーム、単一サーバーアラーム、および任意サーバーアラームを追加することができます。
- 単一クライアントインターフェースを選択した場合、単一クライアントアラームを追加することができます。
- セグメントクライアントインターフェースを選択した場合、セグメントクライアントアラームを追加することができます。
- すべてのクライアントタイプのインターフェースを選択した場合、任意クライアントアラームを追加することができます。
- クライアントノードを選択した場合、単一クライアントアラーム、セグメントクライアントアラーム、および任意クライアントアラームを追加することができます。

アラームの設定が終わったら、「完了」ボタンをクリックして、ビジネスの追加を完了します。ユーザーは指定されたビジネスグループでそのビジネスを確認することができます。ビジネスグループを指定していない場合、「すべてのグループ」で、そのビジネスを確認することができます。

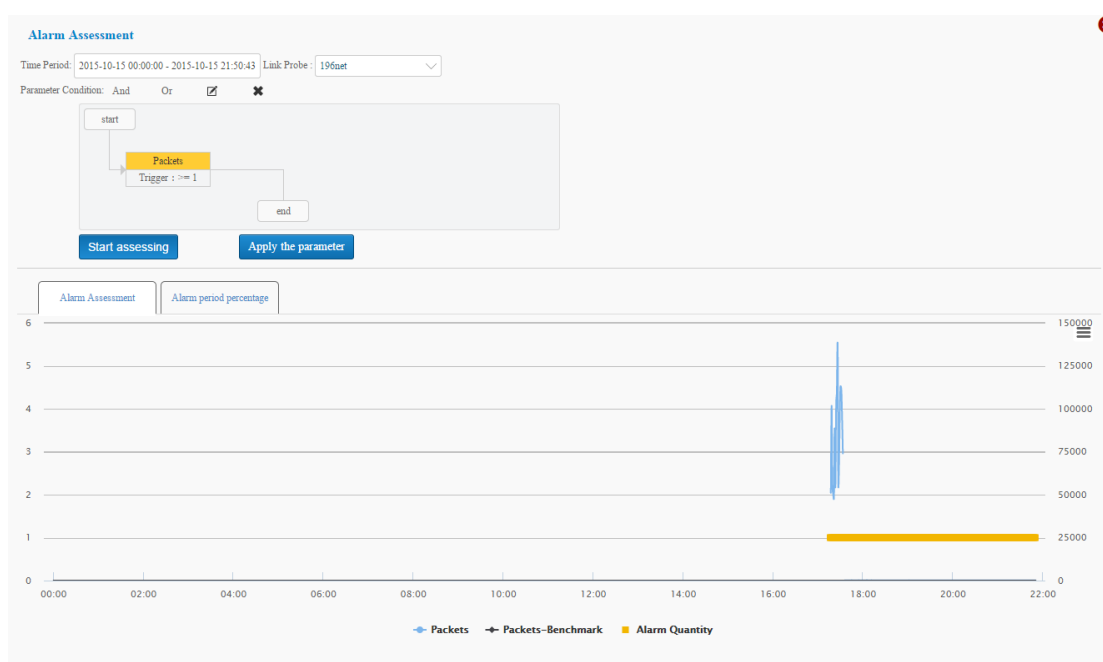
アラーム評価

アラームトリガー条件をより正確に設定するために、アラーム評価は、ユーザーが設定されたアラーム条件に基づいて、アラームのトリガー状況を模倣します。

アラーム評価ダイアログボックスに入るには、二つの方法があります。

- アラームを追加するダイアログボックスで、アラーム条件を設定した後、左下にある「評価」ボタンをクリックします。
- アラームリストで  ボタンをクリックします。

アラーム評価ダイアログボックスは下図のように表示されます。



以下のステップに従い、アラームを評価します。

1. 評価する時間を設定します。最大時間範囲は7日間です。
2. プローブを選択します。
3. 評価する IP アドレスを選択、あるいは入力します。アラームタイプが単一クライアントアラーム、単一サーバーアラーム、およびセグメントアラームの場合、アラーム評価ダイアログボックスでは IP アドレスまたは背具面情報を入力する必要がありません。
4. アラームのパラメータ条件を設定します。
5. 「評価を開始」ボタンをクリックすることで、評価結果が下の部分に表示されます。
6. 評価結果を確認した後、設定されたアラームパラメータ条件が適切である場合、「パラメータを適用」ボタンをクリックして、パラメータ条件をアラームに適用します。アラ

ームパラメータ条件が適切でない場合、パラメータ条件を修正し、もう一度評価することができます。

マルチセグメント解析

本章はアプリケーションのマルチセグメント解析を紹介します。異なるプローブにおける同じアプリケーションのデータを比較することで、アプリケーションのセグメントロス、再送信などの問題を発見し、異なるプローブにおけるアプリケーションの遅延を解析することができます。

ビジネス解析ページで、ビジネスロジックチャートにおける接続ラインをクリックし、ポップアップされたメニューで「マルチセグメント解析」をクリックして、マルチセグメント解析ページに入ります。

マルチセグメント解析設定

マルチセグメント解析を行う前に、時間範囲を設定し、アプリケーションパスを指定し、解析指標を設定する必要があります。

時間範囲を設定

マルチセグメント解析を行う前に、解析の時間範囲を設定する必要があります。マルチセグメント解析を行うとき、最小解析目盛りは1分間で、最大解析目盛りは24時間です。

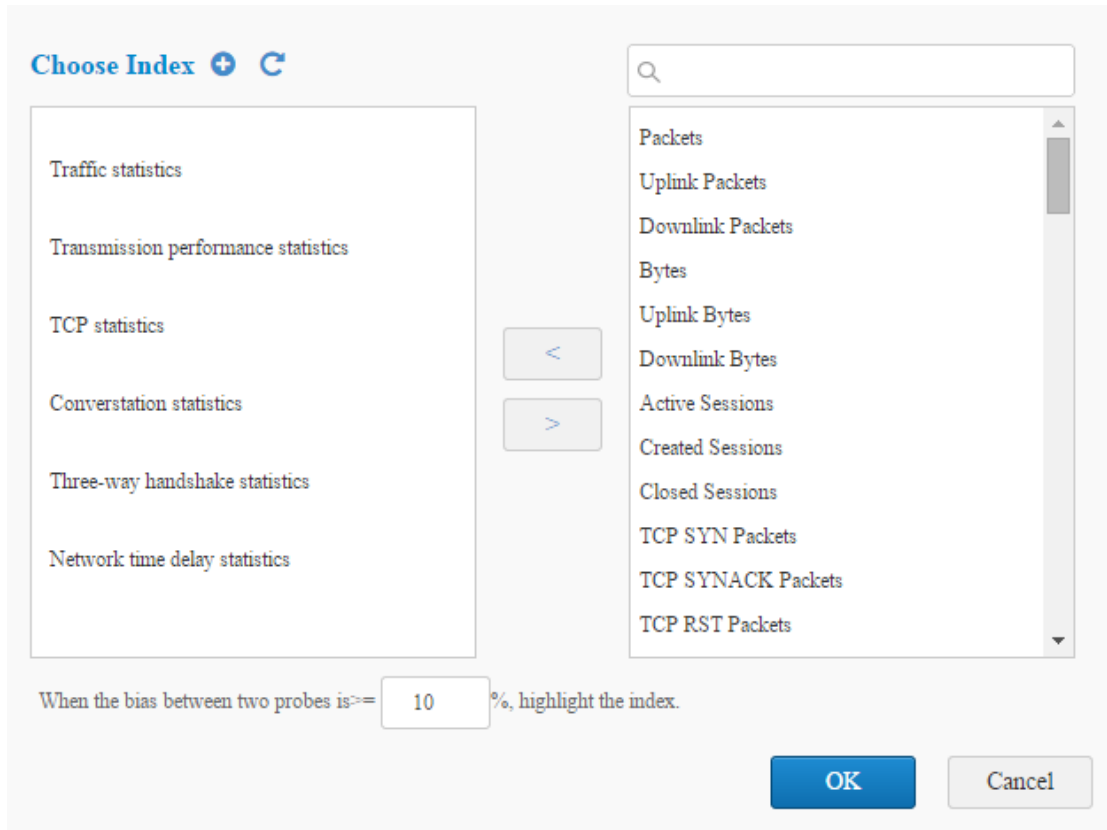
アプリケーションパスを指定

マルチセグメント解析を行うとき、一回には一つのアプリケーションパスしか解析できません。アプリケーションに複数のアプリケーションパスが設定された場合、つまり複数のクライアントノードが設定された場合、マルチセグメント解析を行うクライアントノードを選択する必要があります。

アプリケーションに一つのクライアントノードだけ設定された場合、システムは自動的にそのクライアントノードを選択します。

解析指標を設定

UPM は 90 近くの解析指標を提供します。指標比較リストから解析したい指標を選択します。ユーザーは指標をグループ分けすることで、マルチセグメント解析するとき、関心のある指標グループを選択し、そのグループ内の指標に対して、解析することができます。右上にある「指標をグループ分け」ボタンをクリックして、下図のように指標をグループ分けするダイアログボックスが表示されます。



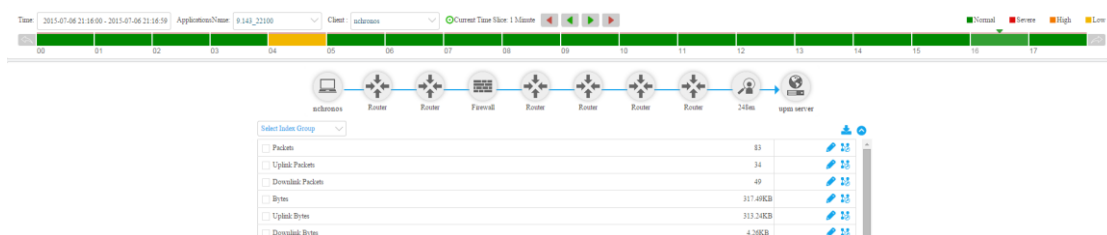
指標の値が二つのプローブにおける偏差値が設定された閾値を超える場合、この指標はハイライト表示されます。デフォルトの閾値は 10% です。

データの自動更新

マルチセグメント解析ページはデータの自動更新機能を提供します。この機能を有効にすれば、データは 1 分ごとに自動的に更新します。この機能を通じて、ユーザーはアプリケーションパスの最新データを確認することができます。デフォルトでは、この機能が有効にされていません。

マルチセグメント解析結果

マルチセグメント解析設定が終わったら、下図のようにマルチセグメント解析結果が表示されます。








アプリケーション通信パス

アプリケーション通信パスはクライアントとサーバーの間のネットワークデバイスと、ネットワークデバイス間の関係を表示します。ネットワークデバイスには、プローブ、スイッチ、ルータ、ファイアウォールなどがあります。アプリケーション通信パスは、ユーザーがビジネスを追加するときに作成されたものです。

指標比較

指標比較リストは異なるプローブにおける各指標の値を表示します。異なるプローブにおける指標の値を比較することで、どこでパケットロスが発生したか、どこでネットワーク遅延が発生したかなど、ネットワーク問題の特定に役立ちます。二つのプローブにおける指標の偏差値が設定された閾値を超える場合、この指標はハイライト表示されます。

ユーザーは一つまたは複数の指標グループを選択し、表示することができます。

-  ボタンをクリックして、偏差範囲を設定するダイアログボックスが表示されます。ユーザーは各指標のために偏差範囲を設定することができます。二つのプローブにおける指標の偏差値が設定された閾値を超える場合、この指標はハイライト表示されます。
-  ボタンをクリックして、総合指標のクエリページに入ります。
-  ボタンをクリックして、指標選択をリセットします。
-  ボタンをクリックして、パケットをダウンロードするページに移動し、このアプリケーションパスに関するパケットをダウンロードします。
-  をクリックして、比較チャートを折りたたみ、指標トレンドチャートの幅を大きくします。

指標トレンドチャート

指標比較リストから指標を選択した場合、UPM は自動的に選択した指標のトレンドチャートを生成します。



指標を一つ選択した場合、指標トレンドチャートで異なるプローブにおけるこの指標の値を比較することができます。二つ、または二つ以上の指標を選択した場合、同じプローブにおける各指標の値を比較することができます。

指標トレンドチャートはエクスポート機能を提供しています。トレンドチャートは PNG、JPG、PDF、SVG および CSV フォーマットのファイルにエクスポートすることができます。

総合指標のクエリ



本章はアプリケーション監視指標のクエリ、アプリケーションに関するサーバー指標のクエリ、指標間の比較クエリ、および指標のグラフィカル表示について説明します。

総合指標のクエリページに入るには、いくつかのショートカットがあります。

- ビジネスの集中監視ページであるビジネスを選択し、ポップアップされたメニューで「クエリ」をクリックすることで、総合指標のクエリページに入ります。
- ビジネス解析ページにおけるビジネスロジックチャートの上にある「総合指標のクエリ」ボタンをクリックすることで、総合指標のクエリページに入ります。
- ビジネス解析ページで、アプリケーション重要指標の右上にある  ボタンをクリックすることで、総合指標のクエリページに入ります。
- ビジネス解析ページで、ビジネスロジックチャートの接続ラインをクリックし、ポップアップされたメニューで「総合指標のクエリ」をクリックすることで総合指標のクエリページに入ります。
- マルチセグメント解析ページで指標比較リストにおける  ボタンをクリックすることで、総合指標のクエリページに入ります。

時間を選択

他のページから総合指標のクエリページに入るとき、入る前のページにおける時間、ビジネス、およびアプリケーションなどの条件も一緒に移動されます。その中で時間を変更することができます。総合指標のクエリページは時間を選択する方法を二つ提供します。

- システムが提供された時間オプションから選択します。時間範囲テキストボックスをクリックして、ポップアップされたダイアログボックスの真ん中におけるドロップダウンリストで過去 1 時間、今日、昨日、先週、先月およびカスタマイズから時間を選択します。カスタマイズを選択した場合、上のカレンダーで時間を指定することができます。最小指定時間は 1 日で、最大指定時間は 30 日です。時間を選択した後、マウスをタイムスライスに移動して、 または  ボタンをクリックして、タイムスライスを拡大したり、縮小したりすることができます。
- 特定の時間範囲を設定します。時間範囲テキストボックスをクリックして、ポップアップされたダイアログボックスで、「時間範囲を選択」にチェックを入れて、手動で開始時間と終了時間を入力します。特定の時間範囲を設定する場合、総合指標のエリアページはタイムスライス情報を表示しません。

指標をクエリ

総合指標のクエリページはビジネス、アプリケーション、サーバーなどの指標の履歴データを比較解析する機能を提供します。ユーザーはクエリ結果に基づいて、各指標の今後の傾向を解析し、アラームの閾値を設定することができます。

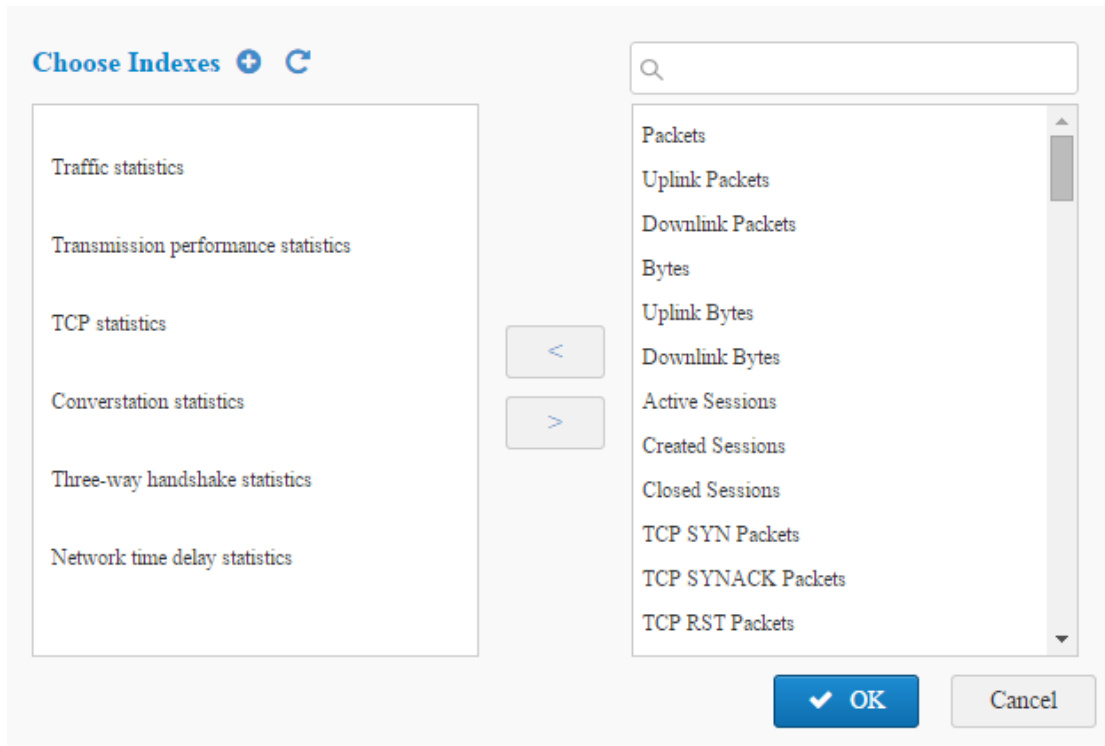
指標グループ



UPM は 90 近くの指標を提供します。指標のチェックを簡単にするために、UPM はデフォルトで下図のようにすべての指標をいくつかのグループにグループ分けしています。


指標グループ	含まれる指標
トラフィック統計	パケット数、アップリンクパケット数、ダウンリンクパケット数、バイト数、アップリンクバイト数、ダウンリンクバイト数、Bps、pps、アラーム数
転送パフォーマンス統計	パケット数(ペイロード)、アップリンクパケット数(ペイロード)、ダウンリンクパケット数(ペイロード)、バイト数(ペイロード)、アップリンクバイト数(ペイロード)、ダウンリンクバイト数(ペイロード)、セグメントロス率、アップリンクセグメントロス率、ダウンリンクセグメントロス率、再送信率、アップリンク再送信率、ダウンリンク再送信率、転送効率、アップリンク転送効率、ダウンリンク転送効率
TCP 統計	TCP SYN パケット、TCP SYN ACK パケット、TCP RST パケット、アップリンク TCP RST パケット、ダウンリンク TCP RST パケット、TCP 再送信パケット、アップリンク TCP 再送信パケット、ダウンリンク TCP 再送信パケット、TCP セグメントロスパケット、アップリンク TCP セグメントロスパケット、ダウンリンク TCP セグメントロスパケット、TCP 重複 ACK パケット、アップリンク TCP 重複 ACK パケット、ダウンリンク TCP 重複 ACK パケット、TCP FIN パケット、アップリンク TCP FIN パケット、ダウンリンク TCP FIN パケット、合計 TCP レスポンス時間、TCP トランザクション数、TCP リクエスト数、TCP レスポンス数、クライアント TCP ウィンドウサイズが 0 の回数、クライアント TCP ウィンドウサイズ、クライアント TCP パケット数、クライアント TCP ウィンドウ平均サイズ、サーバー平均レスポンス遅延、サーバーTCP ウィンドウサイズ、サーバーTCP パケット数、サーバーTCP ウィンドウ平均サイズ、最小 TCP ウィンドウサイズ、接続リクエストのリセット回数、接続リクエストの無応答回数
セッション統計	アクティブなセッション数、作成したセッション数、閉じたセッション数
3 ウェイハンドシェイク統計	3 ウェイハンドシェイク回数、合計 3 ウェイハンドシェイク時間、最大 3 ウェイハンドシェイク時間、最小 3 ウェイハンドシェイク時間、平均 3 ウェイハンドシェイク時間、合計クライアント 3 ウェイハンドシェイク RTT、最大クライアント 3 ウェイハンドシェイク RTT、最小クライアント 3 ウェイハンドシェイク RTT、平均クライアント 3 ウェイハンドシェイク RTT、合計サーバー3 ウェイハンドシェイク RTT、最大サーバー3 ウェイハンドシェイク RTT、最小サーバー 3 ウェイハンドシェイク RTT、平均サーバー3 ウェイハンドシェイク RTT
ネットワーク遅延統計	最大レスポンス時間、最小レスポンス時間、平均レスポンス時間、合計クライアント ACK 遅延、クライアント ACK 遅延回数、最大クライアント ACK 遅延、最小クライアント ACK 遅延、平均クライアント ACK 遅延、合計サーバーACK 遅延、サーバーACK 遅延回数、最大サーバーACK 遅延、最小サーバーACK 遅延、平均サーバーACK 遅延、合計クライアントアイドル時間、クライアントアイドル回数、最大クライアントアイドル時間、最小クライアントアイドル時間、平均クラ

イアントアイドル時間


「指標をグループ分け」ボタンをクリックして、下図のように指標をグループ分けするダイアログボックスが表示されます。ユーザーは指標グループを新規追加したり、UPM が提供されたグループを修正したりすることができます。



 ボタンをクリックして、グループを追加するダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスでグループ名を入力して、「OK」をクリックすることで、グループ名の追加が完了します。そして右側のリストで指標（複数選択をサポートする）を選択し、 をクリックすることで、選択された指標を新しいグループに追加することができます。

 ボタンをクリックして、ユーザーが定義されたすべてのグループが削除され、指標グループがデフォルト状態となります。

リスト表示

指標のクエリ結果について、リスト表示とツリー表示という二つの表示方法があります。デフォルトではツリー表示で、 ボタンを通じて、切り替えることができます。

リスト表示する場合、リストでビジネスと関連するサーバーのパフォーマンスパラメータが表示されます。ユーザーは異なるプローブにおけるサーバーのパフォーマンスパラメータを確認することができます。そして、下図のようにパフォーマンスパラメータによって、並べ替えることができます。

Application	Probe	Server	Packets	Uplink Packets	Downlink Packets	Bytes	Uplink Bytes	Downlink Bytes	Alarms	Bps	pps
145nm	195se	192.168.9.143	131	37	94	405.74KB	399.55KB	6.19KB	0	6.76Kbps	2.18pps

ユーザーはリストで二つの記録を選択し、パラメータを比較することができます。その場合、チャートエリアはユーザーが選択された指標のトレンドチャートを表示します。

ツリー表示

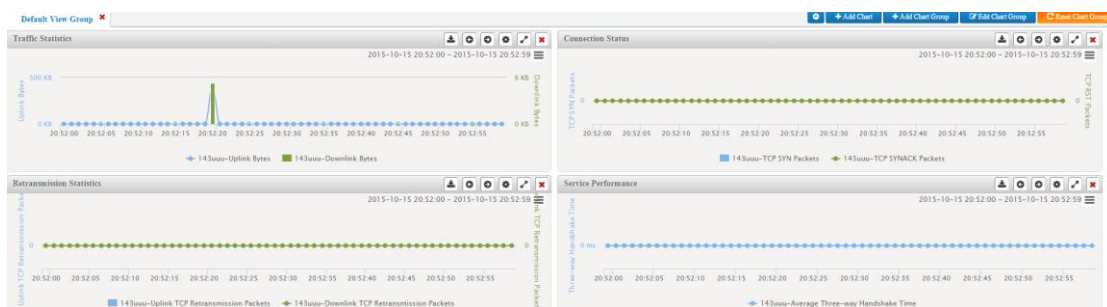
ツリー表示する場合、アプリケーションを視角にして、すべてのアプリケーションのパフォーマンスパラメータを表示します。アプリケーションを展開して、このアプリケーションに属する各プローブのパフォーマンスパラメータが表示されます。さらにプローブを展開して、下図のように各プローブに属するサーバーのパフォーマンスパラメータを確認することができます。

Application	Packets	Uplink Packets	Downlink Packets	Bytes	Uplink Bytes	Downlink Bytes	Alarms	Bps	pps	Packets (Period)	Uplink Packets
145nm (Regular Link)	131	37	94	405.74KB	399.55KB	6.19KB	21	6.76Kbps	2.18pps	45	37
195se	131	37	94	405.74KB	399.55KB	6.19KB	0	6.76Kbps	2.18pps	45	37
192.168.9.143	131	37	94	405.74KB	399.55KB	6.19KB	0	6.76Kbps	2.18pps	45	37

ツリー表示する場合、同じレベルの記録(つまりアプリケーションとアプリケーションの比較、プローブとプローブの比較、サーバーとサーバーの比較)を二つ選択して、パラメータを比較することができます。チャートエリアはユーザーが選択された指標のトレンドチャートを表示します。

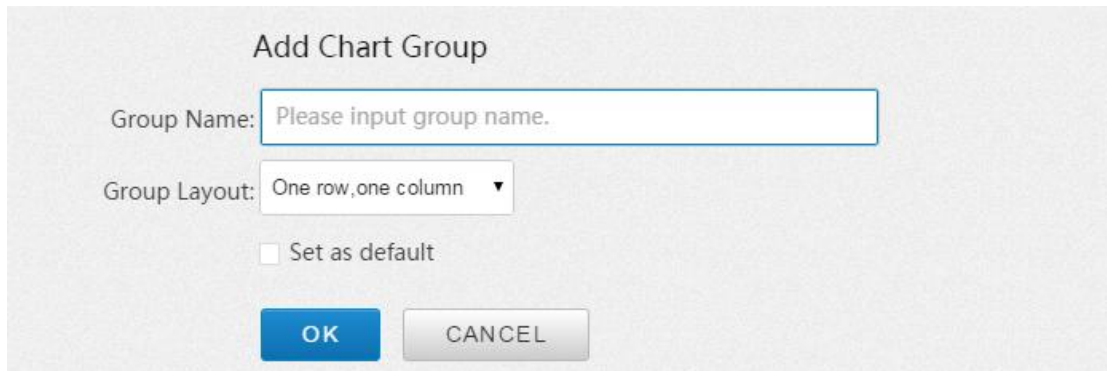
指標チャート

UPM はデフォルトのチャートグループを提供します。デフォルトのチャートグループは下図のように表示されます。



チャートグループを追加

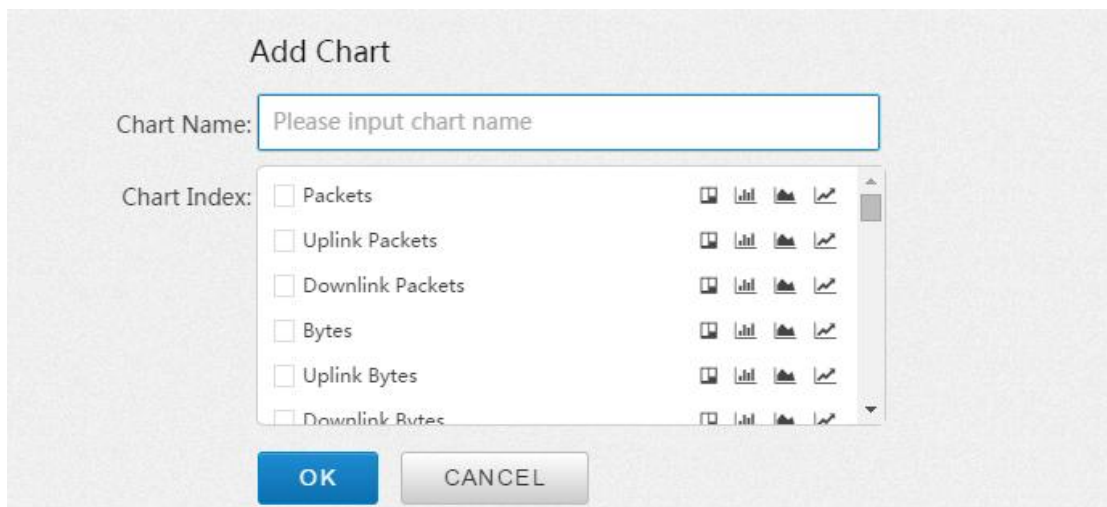
一つのチャートグループには、一つまたは複数のチャートが含まれています。「チャートグループを追加」ボタンをクリックして、下図のようにチャートグループを追加するダイアログボックスが表示されます。チャートグループの名前とレイアウトを設定します。



ユーザーは新規追加されたチャートグループをデフォルトのチャートグループに設定することができます。デフォルトのチャートグループは削除できません。「チャートグループをリセット」ボタンをクリックして、デフォルトのチャートグループを除いて、ユーザー定義されたすべてのチャートグループが削除されます。

チャートを追加

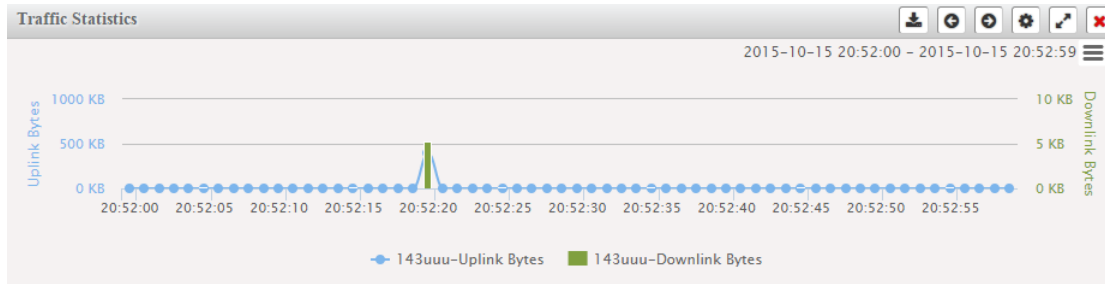
「チャートを追加」ボタンをクリックして、下図のようにチャートを追加するダイアログボックスが表示されます。










チャート名を入力し、チャートで表示される指標を選択し、各指標のためにチャートタイプを指定します。UPMはスタックグラフ、面グラフ、棒グラフ、折れ線グラフという四つのタイプをサポートします。ユーザーは、「チャート指標をリセット」ボタンをクリックして、すでに選択された指標を迅速にクリアすることができます。

チャート利用について

指標チャートは下図のように表示されます。



ユーザーは、チャートの右上にあるボタンを通じて、チャート进行操作することができます。

-  ボタンをクリックして、パケットをダウンロードするページに移動します。
-  ボタンをクリックして、時間を 30 秒/30 分/12 時間前へ移動します。移動される時間は現在ページの時間メモリと関係しています。
-  ボタンをクリックして、時間を 30 秒/30 分/12 時間後へ移動します。移動される時間は現在ページの時間メモリと関係しています。
-  ボタンをクリックして、チャートで表示する指標とチャートタイプを修正します。
-  ボタンをクリックして、チャートを最大化にします。
-  ボタンをクリックして、チャートを削除します。
-  ボタンをクリックして、PNG、JPG、PDF、SVG および CSV フォーマットのファイルにエクスポートします。

チャートである部分を選択して、その部分に対して解析することができます。「戻す」ボタンをクリックして、チャートを選択前の状態に戻します。

特定時間帯のデータをクエリ

総合指標のクエリページには、「ワーキング時間内のデータだけをクエリ」チェックボックスがあります。このチェックボックスにチェックを入れると、選択された時間範囲において、ワーキング時間内のデータだけをクエリします。チェックを入れていない場合、選択された時間範囲内のすべてのデータをクエリします。

データの自動更新

総合指標のクエリページはデータの自動更新機能を提供します。この機能を有効にすれば、データは1分ごとに自動的に更新します。この機能を通じて、ユーザーは選択されたビジネスの最新データを確認することができます。デフォルトでは、この機能が有効にされていません。

パケットをダウンロード

Colasoft UPM はパケットをダウンロードする機能を提供します。パケットをダウンロードするページは下図のように表示されます。

Packets Download

Time Period:

ApplicationsName: File Format:

Client:

Link Probe:

パケットをダウンロードするには、

1. 「時間範囲」テキストボックスをクリックして、時間を指定します。
2. パケットをダウンロードするアプリケーションを選択します。
3. ファイルフォーマットを指定します。 .rawpkt と .pcap から選択することができます。
4. アプリケーションのクライアントを選択します。ユーザーはあるクライアントのパケットだけをダウンロードすることができますが、すべてのクライアントのパケットをダウンロードすることもできます。デフォルトではすべてのクライアントのパケットをダウンロードします。
5. プロブを指定します。ユーザーはあるプロブのパケットだけをダウンロードすることができますが、すべてのプロブのパケットをダウンロードすることもできます。デフォルトではすべてのプロブのパケットをダウンロードします。
6. 「ダウンロード」をクリックして、パケットのダウンロードを始めます。

SLA レポート

本章は SLA レポートテンプレートと SLA レポートの定期送信について紹介します。

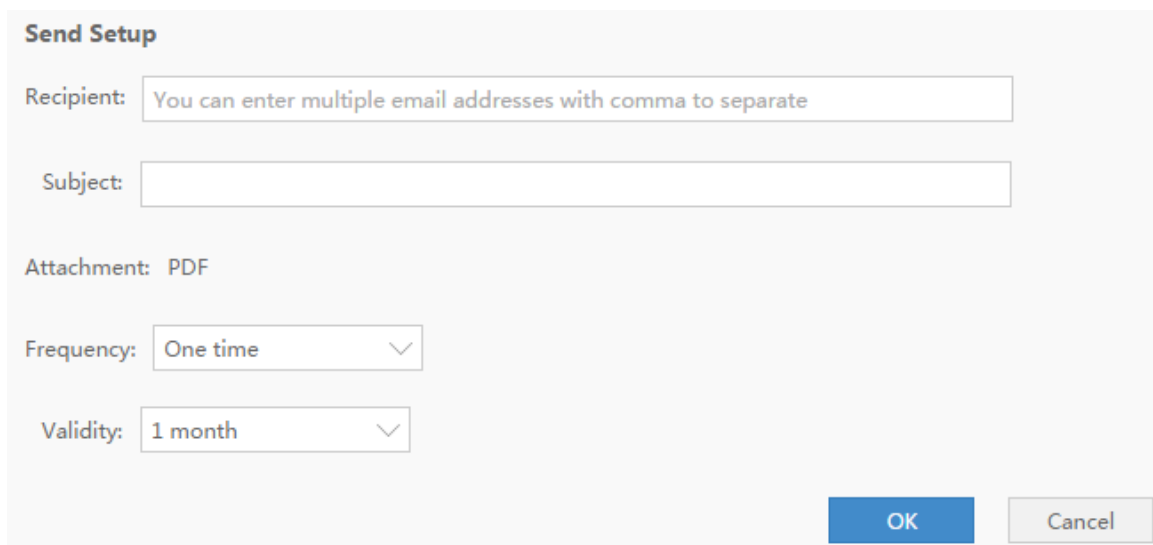
SLA レポートテンプレート

SLA レポートには、以下の情報が含まれています。

- ビジネス名とビジネスに属するアプリケーション数
- ビジネスの運行時間、故障時間、無故障時間、故障率、および無故障率
- アプリケーションの運行時間、故障時間、無故障時間、故障率、および無故障率

SLA レポートの定期送信

SLA レポートの右上にある「送信」ボタンをクリックして、下図のように SLA レポートの送信を設定するページに入ります。



Send Setup

Recipient:

Subject:

Attachment: PDF

Frequency:

Validity:

OK Cancel

ユーザーはすぐ送信に設定することもできますが、定期送信に設定することもできます。以下は設定ページにおける各オプションについて説明しています。

- **受信者:** SLA レポートの受信者 E メールアドレスを入力します。複数アドレスの場合、カンマで区切ってください。
- **件名:** SLA レポートの件名を設定します。
- **添付ファイル:** SLA レポートの添付ファイルのフォーマットです。今のところ、PDF フォーマットしかサポートしていません。
- **頻度:** SLA レポートの頻度を設定します。以下の四つの頻度タイプから選択することができます。
 - **一回:** 一回に指定すると、有効期間を設定することができません。同時にこの SLA レポートはすぐに送信されます。
 - **毎日:** 毎日に指定すると、この SLA レポートは有効期間内で日に一度送信されます。
 - **毎週:** 毎週に指定すると、この SLA レポートは有効期間内で週に一回送信されます。ユーザーは送信する曜日を指定することができます。

- **毎月**: 毎月に指定すると、この SLA レポートは有効期間内でつきに一回送信されます。ユーザーは毎月のどの日に送信することを設定することができます。
- **有効期間**: SLA レポートを定期送信する有効期間です。1 か月から 1 2 か月まで選択することができます。

UPM 設定

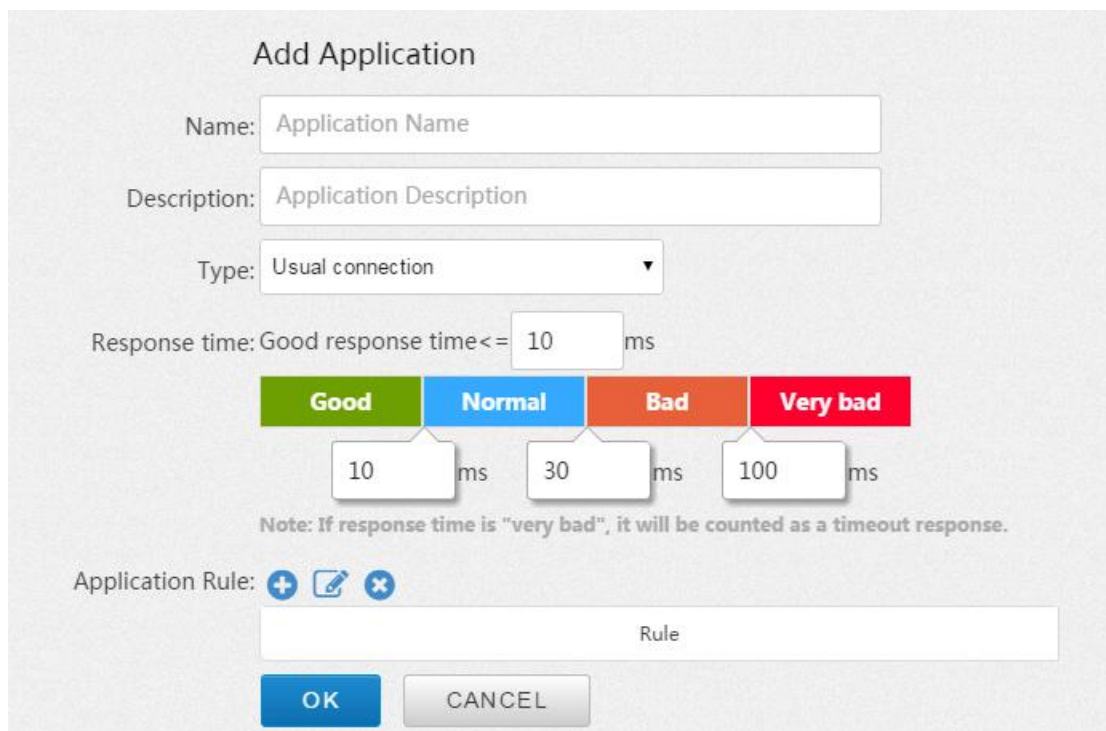
本章は、アプリケーション管理、nChronos サーバー管理、プローブ管理、事前定義のアラーム、ネットワークセグメント管理、イベント管理、SLA レポート送信、ユーザーアカウントなどを含め、UPM の設定について紹介します。

アプリケーション管理

アプリケーション管理ページでは、アプリケーションを追加、修正、削除することができます。

アプリケーションリストには、インテリジェンスアプリケーション整理を行うとき追加されたアプリケーションとアプリケーション管理ページで追加されたアプリケーションが含まれています。ユーザーは必要に応じて、各ページで表示するアプリケーション数を設定し、特定のアプリケーションを検索したり、アプリケーションリストにおけるフィールドでアプリケーションを並べ替えたりすることができます。


「追加」ボタンをクリックして、下図のようにアプリケーションを追加するダイアログボックスが表示されます。



アプリケーションは通常接続、ロング接続、および二重非同期ロング接続という三つのタイプがあります。一つのアプリケーションには複数のアプリケーションルールを追加することができます。

通常接続アプリケーションを追加

通常接続アプリケーションを追加するダイアログボックスは下図のように表示されます。

 ボタンをクリックして、下図のようにアプリケーションルールを追加するダイアログボックスが表示されます。

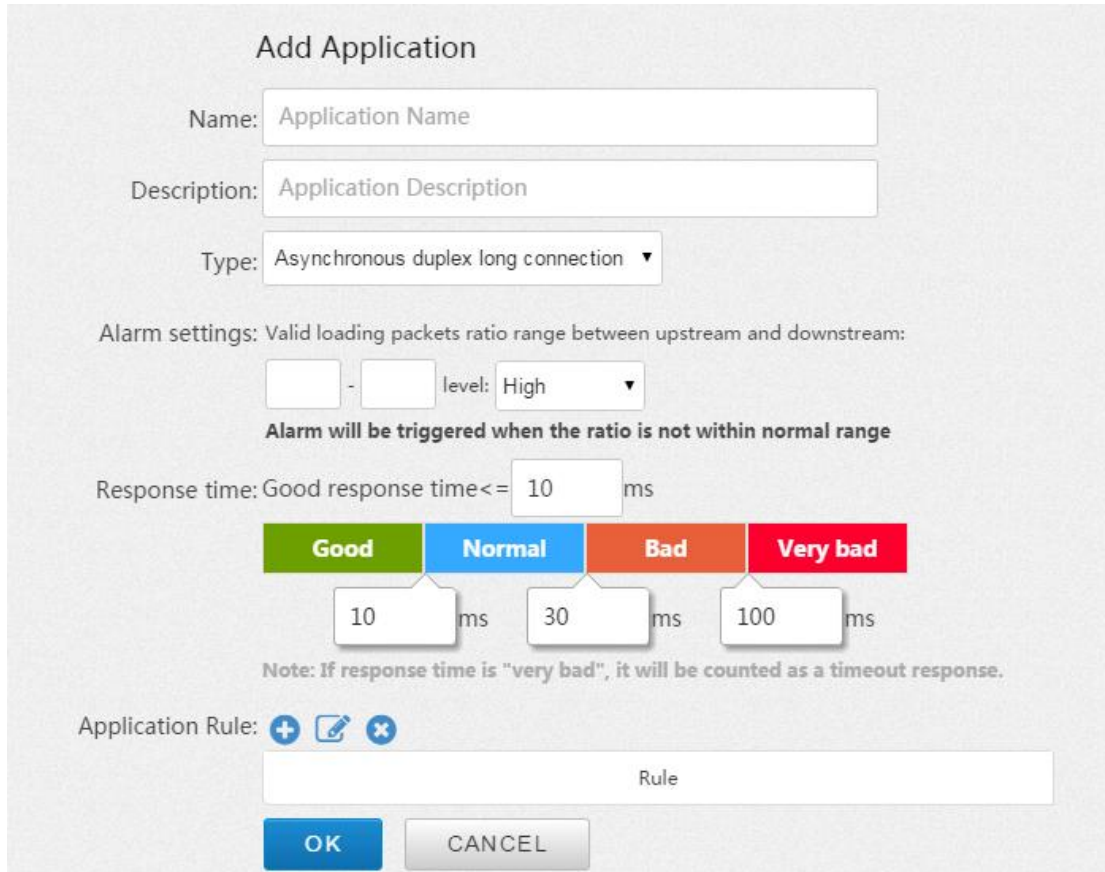
通常接続アプリケーションでは、クライアントはオプション設定です。アプリケーションルールは IP ペアに設定することもできますが、単にサーバー側の IP アドレス+ポートだけを設定することもできます。

ロング接続アプリケーションを追加

ロング接続アプリケーションを追加するダイアログボックスは、通常接続アプリケーションを追加するダイアログボックスと同じです。

二重非同期ロング接続アプリケーションを追加

二重非同期ロング接続アプリケーションを追加するダイアログボックスは下図のように表示されます。



Add Application

Name:

Description:

Type:

Alarm settings: Valid loading packets ratio range between upstream and downstream:
 - level:

Alarm will be triggered when the ratio is not within normal range

Response time: Good response time <= ms

Good	Normal	Bad	Very bad
<input type="text" value="10"/> ms	<input type="text" value="30"/> ms	<input type="text" value="100"/> ms	

Note: If response time is "very bad", it will be counted as a timeout response.

Application Rule: + ✎ ✕

二重非同期ロング接続アプリケーションに対して、アップリンクとダウンリンクペイロードパケットのアラームを設定することができます。アップリンクとダウンリンクペイロードパケットの比率が設定された範囲外である場合、アラームがトリガーされます。

+ ボタンをクリックして、下図のようにアプリケーションルールを追加するダイアログボックスが表示されます。

Add Rule

Server

IP Address: Single IP

Port: TCP Single port

Enable NAT mapping analysis

Client

IP Address: Single IP

Port: TCP Single port

Enable NAT mapping analysis

二重非同期ロング接続アプリケーションのルールは、IP ペアに設定する必要があります。そして、ポートタイプは TCP にする必要があります。

アプリケーションレスポンス時間を設定

アプリケーションを設定するとき、アプリケーションのレスポンス時間を設定することができます。アプリケーションレスポンス時間は、良い、普通、悪い、非常に悪いという四つのレベルに分けています。アプリケーションにおけるある TCP セッションのレスポンス時間が「非常に悪い」場合、一回のレスポンスタイムアウトとされます。

ユーザーはレスポンス時間が「良い」場合の値だけを設定する必要があります。システムは自動的に「普通」、「悪い」、「非常に悪い」時のレスポンス時間を計算します。ユーザーは必要に応じて、「普通」、「悪い」、「非常に悪い」時のレスポンス時間を調整することもできます。

nChronos サーバー管理

nChronos サーバーはデータをキャプチャー、解析、統計し、そして定期的に UPM センターにデータをアップロードします。そして、UPM センターは異なるネットワーク位置に配置された一つまたは複数の nChronos サーバーを集中的に管理します。従って、UPM センターを利用する前に、nChronos サーバーを追加する必要があります。nChronos サーバーを追加した後、UPM センターと nChronos サーバーとのデータのインタラクションが実現されることができます。

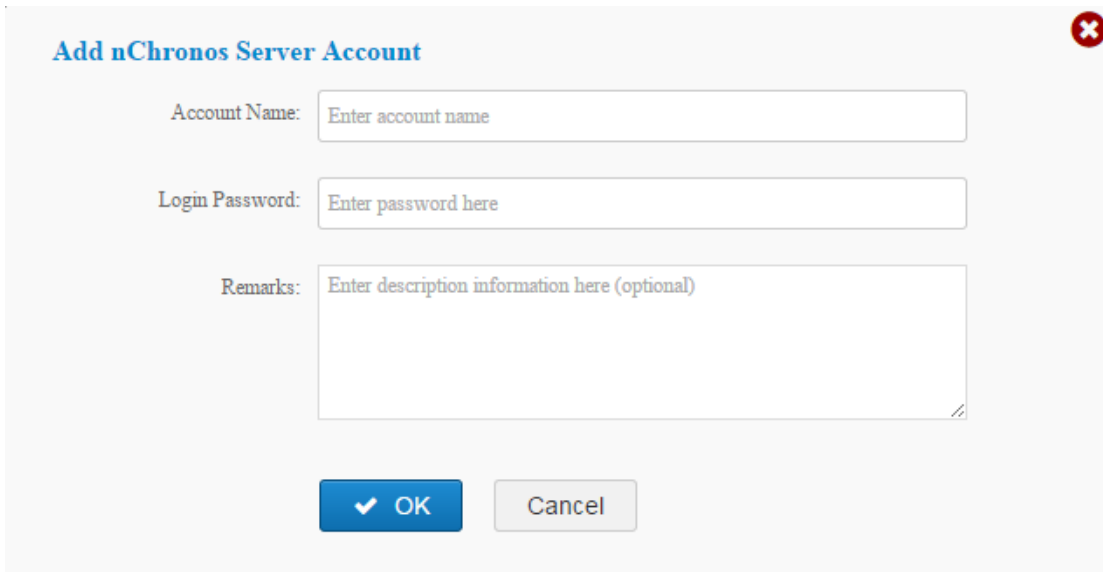
UPM センターでは、下図のように nChronos サーバーのアカウント情報と状態情報を確認することができます。

Add nChronos Server Account		Account Name	Password	Remarks
<input type="checkbox"/>	1	csadmin	csadmin	csadmin
<input type="checkbox"/>	2

nChronos サーバーアカウントを追加

初めて UPM を利用する場合、実際のネットワーク状況によって nChronos サーバーを追加する必要があります。nChronos サーバーで追加されたアカウント情報を使って、UPM センターに接続します。

nChronos サーバーアカウントを追加するには、「nChronos サーバーアカウントを追加」ボタンをクリックして、下図のように nChronos サーバーアカウントを追加するダイアログボックスが表示されます。



The dialog box titled "Add nChronos Server Account" contains the following fields and buttons:

- Account Name:** A text input field with the placeholder text "Enter account name".
- Login Password:** A text input field with the placeholder text "Enter password here".
- Remarks:** A larger text area with the placeholder text "Enter description information here (optional)".
- Buttons:** An "OK" button with a checkmark icon and a "Cancel" button.

nChronos サーバー情報を表示

ユーザーは nChronos サーバーリストで、nChronos サーバー状態、リンクプローブ、およびインタラクティブログなどの情報を含め、追加された各 nChronos サーバーの詳細情報を確認することができます。

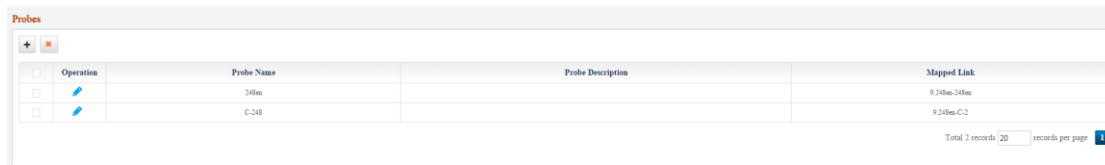
「表示」をクリックして、下図のように nChronos サーバー情報ページに入ります。

nChronos Server Status		Link Probe	Interaction Log
Account Name			9245m
nChronos Server Version			4.9.0.1084
CPU Utilization			0%
Memory Utilization			43%
Available Memory			4.51 GB
Total Memory			8.00 GB
Disk Usage			D:469GB-489GB E:39GB 1217GB
Running Duration			12:07:57
Connection Times			22

プローブ管理

UPM センターでは、一つのプローブは一つのキャプチャーサイトを表します。プローブと nChronos サーバーのネットワークリンクとは一々対応しています。nChronos サーバーのネットワークリンクを監視するには、このリンクをプローブとしてマッピングする必要があります。

追加されたプローブのリストは以下のように表示されます。

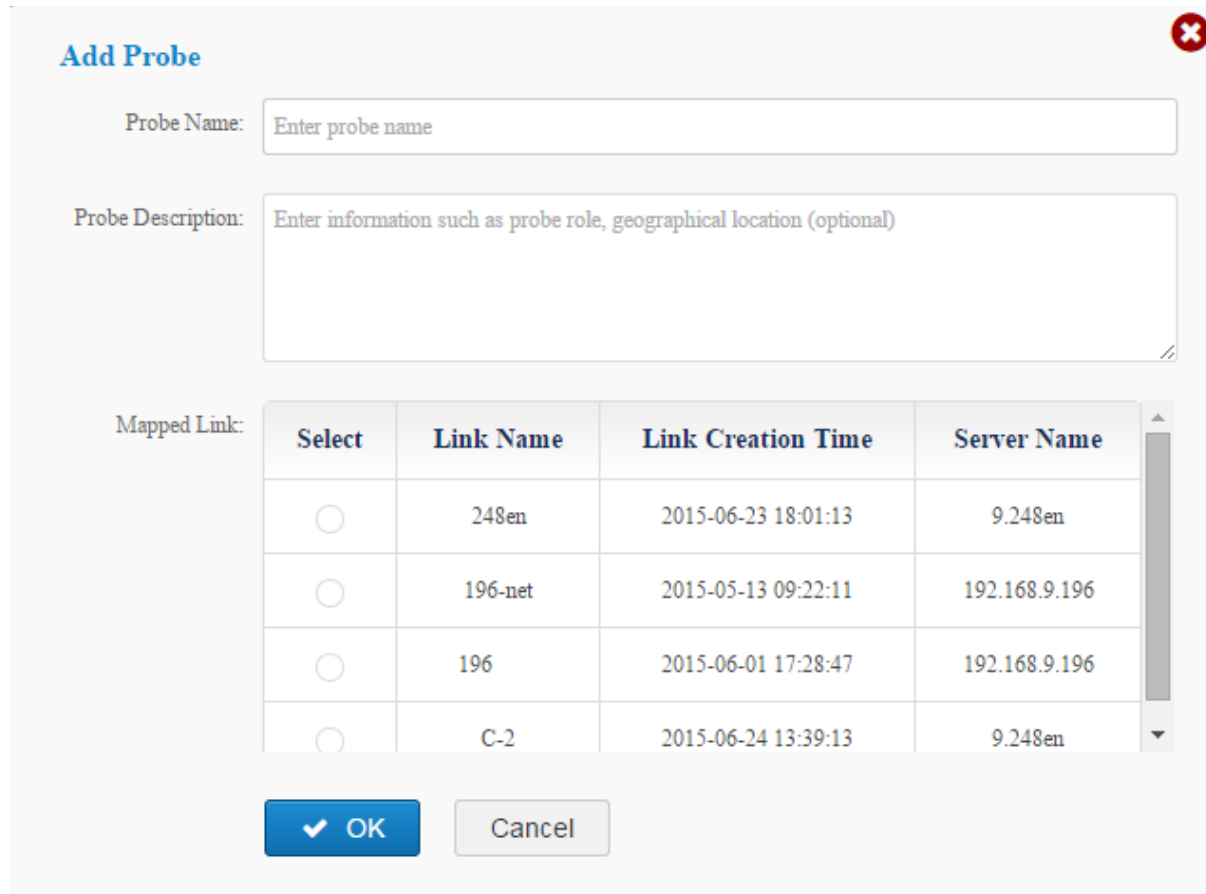


Operation	Probe Name	Probe Description	Mapped Link
<input type="checkbox"/>	248en		9.248en-248en
<input type="checkbox"/>	C-248		9.248en-C-2

Total 2 records, 20 records per page

プローブを追加

「プローブを追加」ボタンをクリックして、下図のようにプローブを追加するダイアログボックスが表示されます。



Add Probe

Probe Name:

Probe Description:

Mapped Link:

Select	Link Name	Link Creation Time	Server Name
<input type="radio"/>	248en	2015-06-23 18:01:13	9.248en
<input type="radio"/>	196-net	2015-05-13 09:22:11	192.168.9.196
<input type="radio"/>	196	2015-06-01 17:28:47	192.168.9.196
<input type="radio"/>	C-2	2015-06-24 13:39:13	9.248en

プローブを追加するとき、選択可能なマッピングリンクがない場合、マッピングリンクを設定しなくても良いです。プローブの追加が完了した後、「プローブを修正」ボタンをクリックして、もう一度マッピングリンクを設定することができます。

Note 一つのネットワークリンクは一つのプローブにだけマッピングされることができません。

事前定義のアラーム

UPM センターは事前定義のアラームテンプレート機能を提供します。ビジネスアラームを作成するとき、ユーザーは作成済みのアラームテンプレートから直接選択することができます。UPM アラームには、アプリケーション監視アラーム、セグメントクライアントアラーム、任意クライアントアラーム、単一クライアントアラームという四つのタイプのアラームがあります。各アラームタイプに複数のテンプレートを作成することができます。事前定義のアラームページは下図のように表示されます。

Operation	Alarm Name	Alarm Severity	Alarm Category	Alarm Type	Creator	Time Bucket	Description
	122222222	Low	jit	Application Alarm	codman	1	

Total 1 records, 20 records per page

アラームテンプレート

アラームテンプレートを追加

以下のステップに従い、アラームテンプレートを追加します。

1. テンプレートを追加する必要があるアラーム(例えば、アプリケーション監視アラーム)を選択し、 ボタンをクリックすることで、下図のようにテンプレートを追加するダイアログボックスが表示されます。

Add Template

Template Definition

Name:

Description:



Alarm Template

appalarm pps

2. テンプレートの名前と説明情報を入力します。
3. テンプレートに含まれるアラームを選択します。これはオプション設定です。アラームを選択していない場合、追加されたテンプレートにはアラームがありません。ユーザーはアラームテンプレートの追加に成功した後、「アラームを追加」ボタンをクリックして、このテンプレートのためにアラームを追加することができます。
4. 「OK」をクリックして、アラームテンプレートの追加を完了します。

アラームテンプレートのインポートとエクスポート

UPM センターでは、アラームテンプレートをインポートまたはエクスポートすることができます。管理者だけテンプレートのインポートとエクスポートを行うことができることに注意してください。

-  ボタンをクリックして、テンプレートファイルを選択するダイアログボックスが表示されます。インポートしたいファイルを選択して、UPM センターにインポートします。
-  ボタンをクリックして、アラームテンプレートを .csu ファイルにエクスポートします。

アラームを追加

「アプリケーション監視アラーム」を選択し、「アラームを追加」ボタンをクリックすることで、下図のようにアプリケーション監視アラームを追加するダイアログボックスが表示されます。

Add Alarm
✕

Definition

Name:

Description:

Type: Severity:

Category: Creator:

Alarm Condition

Valid Period: All the time Specified time period

Time Bucket:

Parameter Condition: And Or

Send to

Email SYSLOG

Alarm Packets

Auto-save Packets: seconds

Alarm Template

app

アラーム定義

アラーム定義でアラームの基本的な情報を設定します。

- 名前:アラームの名前は既存のものと重複することができません。ビジネスのアプリケーションを定義する際にアラームテンプレートを有効にする場合、アプリケーション名は自動的に接頭辞としてアラーム名に追加されます。
- 説明:アラームの影響、引き起こす可能性があるトラブルなどの説明情報を入力します。
- タイプ:現在追加されたアラームのタイプを表示します。
- レベル:アラームのレベルを低、中、高から選択します。
- カテゴリ:アラームのカテゴリで、ユーザーはカスタマイズすることができます。
- 作成者:アラームを作成する人の名前を入力します。

アラーム条件

アラーム条件で、アラームの有効時間、持続時間、およびパラメータ条件を設定することができます。

- 有効時間:アラームの有効時間を設定します。デフォルトでは「すべての時間」となります。「時間を指定」にチェックを入れると、時間を選択するダイアログボックスが表示されます。ユーザーは必要に応じてアラームの有効時間を指定することができます。
- 持続時間: 1 秒、10 秒、60 秒からアラームの持続時間を選択します。
- パラメータ条件: 「And」または「Or」をクリックして、アラームのトリガー条件を設定します。

アラーム送信

アラーム送信で、アラームがトリガーされた後メールボックスまたは SYSLOG サーバーに送信するかどうかを設定することができます。

- 「メールボックスに送信」にチェックを入れることで、アラームメール受信者アドレスを入力するテキストボックスが表示されます。テキストボックスで受信者アドレスを入力します。複数アドレスの場合、改行コードで区切ってください。
- 「SYSLOG に送信」にチェックを入れると、アラームメールは SYSLOG サーバーに送信されます。


 **Note** アラーム送信機能を利用する前に、SMTP 設定が正しいことを確認してください。

アラームパッケージ

アラームパッケージでパッケージの自動保存を設定することができます。そして保存パッケージの時間範囲を設定することができます。

アラームテンプレート

今追加されるアラームが属するアラームテンプレートを指定することができます。一つのアラームは複数のアラームテンプレートに追加することができます。アラームが属するアラームテンプレートを指定しない場合、このアラームは「未グループ分け」に属します。

 **Tips** アプリケーションを追加するとき、設定効率を上げるために、アラームテンプレートを有効することができます。

アラームと情報送信

アラーム送信

アラーム送信ページでは、下図のようにアラームの受信者アドレスとアラームを送信する間隔を設定することができます。

Alarm sending | Syslog sending

Email subject:

Recipient address: Please separate addresses with carriage returns.

Time interval: Time interval range 1-999(minute)

Syslog 送信

送信ページでは、下図のように syslog サーバーアドレス、送信する間隔、syslog のフォーマットを設定することができます。

Alarm sending | Syslog sending

Syslog address: Please separate addresses with carriage returns.

Send regularly Send instantly

Example: Business Name 【 Triggerring Time 【 Triggerring Time 【 Triggerring Time(UTC) 【 Link name 【 Alarm name 【 Alarm Type 【 Alarm Severity 【 Triggerring Source 【 Triggerring Condition

Customize separator: For example: | | \$ | | , & # +

Syslog format:

UPM センターは、ビジネス名、トリガー時間、リンク名、アラーム名、アラームタイプ、アラームレベル、トリガーソースおよびトリガー条件などのフィールドを提供します。ユーザーはフィールドの順序を調整したり、フィールド間の区切り文字をカスタマイズし、カスタマイズフィールドを追加したりして、syslog フォーマットをカスタマイズすることができます。

ネットワークセグメント管理

UPM センターで設定されたネットワークセグメント情報は UPM センターと接続している nChronos サーバーに自動的にプッシュされます。

ネットワークセグメントページは下図のように表示されます。

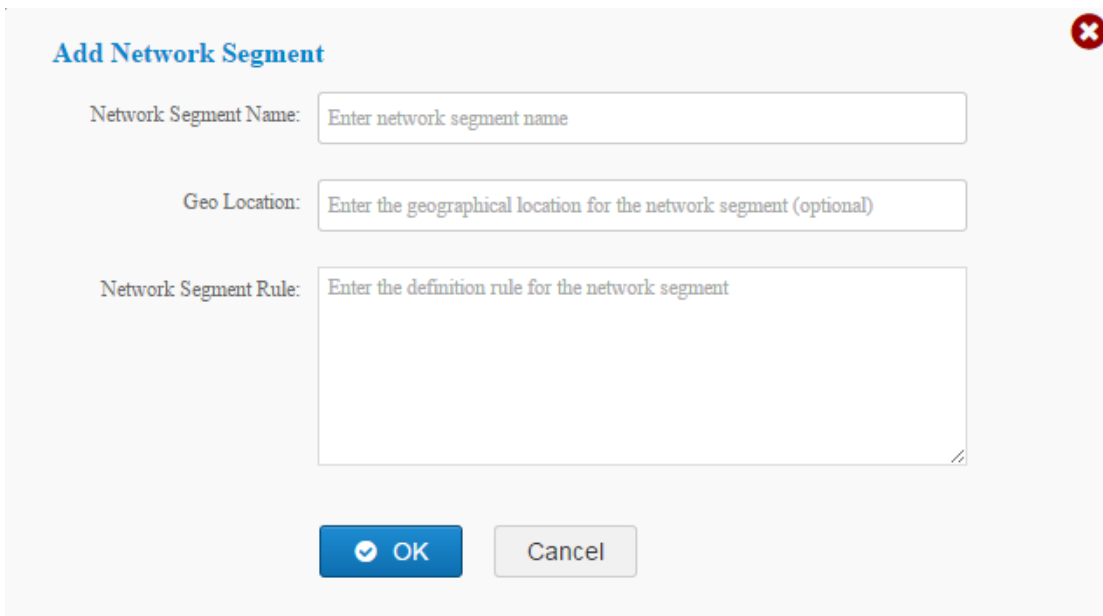


Select All	Operation	Network Segment Name	Geo Location
<input type="checkbox"/>		Segments	

Total 1 records | 20 records per page

ネットワークセグメントを追加

「ネットワークセグメントを追加」ボタンをクリックして、下図のようにネットワークセグメントを追加するダイアログボックスが表示されます。



Add Network Segment

Network Segment Name:

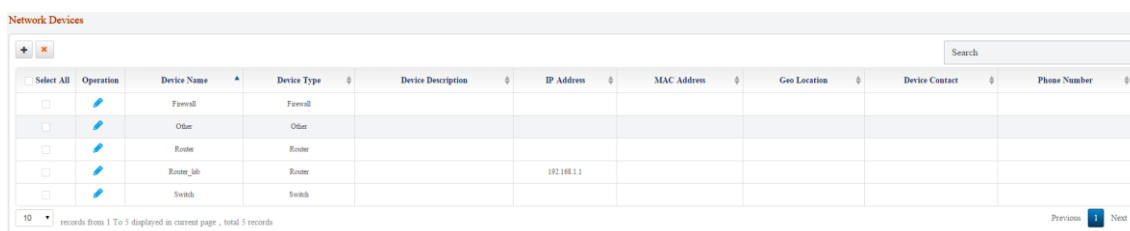
Geo Location:

Network Segment Rule:

ネットワークデバイス管理

ネットワークデバイス管理ページでは、UPM センターで追加されたすべてのネットワークデバイスを集中的に管理することができます。一つのネットワークデバイスは一回設定することで、複数のアプリケーション通信パスで利用されることができます。それは設定効率をかなり向上させることができます。

ネットワークデバイスリストは下図のように表示されます。



Select All	Operation	Device Name	Device Type	Device Description	IP Address	MAC Address	Geo Location	Device Contact	Phone Number
<input type="checkbox"/>		Firewall	Firewall						
<input type="checkbox"/>		Other	Other						
<input type="checkbox"/>		Router	Router						
<input type="checkbox"/>		Route_16	Router		192.168.1.1				
<input type="checkbox"/>		Switch	Switch						

records from 1 To 5 displayed in current page, total 5 records

「ネットワークデバイスを追加」ボタンをクリックして、下図のようにネットワークデバイスを追加するダイアログボックスが表示されます。

Add Network Device ✖

Device Name:

Device Type: ▼

Device Description:

IP Address:

MAC Address:

Geo Location:

Device Contact:

Phone Number:

ネットワークデバイスには、ルータ、スイッチ、ファイアウォール、負荷分散、ゲートウェイおよびその他という六つのタイプがあります。

イベント管理

イベント管理ページでは、UPM センターで追加されたすべてのアラームイベントを集中的に管理することができます。アラームイベントには、トラブルの詳細な処理過程を記録していて、トラブルに関するビジネス、アプリケーションおよびアラームなどの情報が含まれています。今後類似トラブルが発生する場合、非常に有益な参考資料となります。

アラームイベントリストは下図のように表示されます。

Select All	Operation	Event Name	Start Time of the Event	Duration of the Event	Unit of the Event	Handler	Event Description	Event Handling Details	Suggestion to Handle the Event	Related Application	Related Alarm
<input type="checkbox"/>		event	2015-10-15 15:09:40	111	seconds	id	idddd	ddddddddd	ddd		system 198
<input type="checkbox"/>		slow response	2015-10-28 10:32:27	10	second	lin	abnormal acc	Check the sett...	Check the sett...	test	pps
<input type="checkbox"/>		event	2015-10-28 10:41:45	10	second	lin	abnormal acc	check setting i...	check setting i...	test	pps

records from 1 To 3 displayed in current page , total 3 records

Previous **1** Next

イベント管理ページは検索機能を提供します。検索テキストボックスでキーワードを入力することで、関心のあるイベントを特定することができます。

「イベントを追加」ボタンをクリックして、下図のようにイベントを追加するダイアログボックスが表示されます。

Event Name:

Duration of the Event: s

Start Time of the Event:

Event Description:

Handler:

Event Handling Details:

Suggestion to Handle the Event:

Related Business:

Related Application: test v6

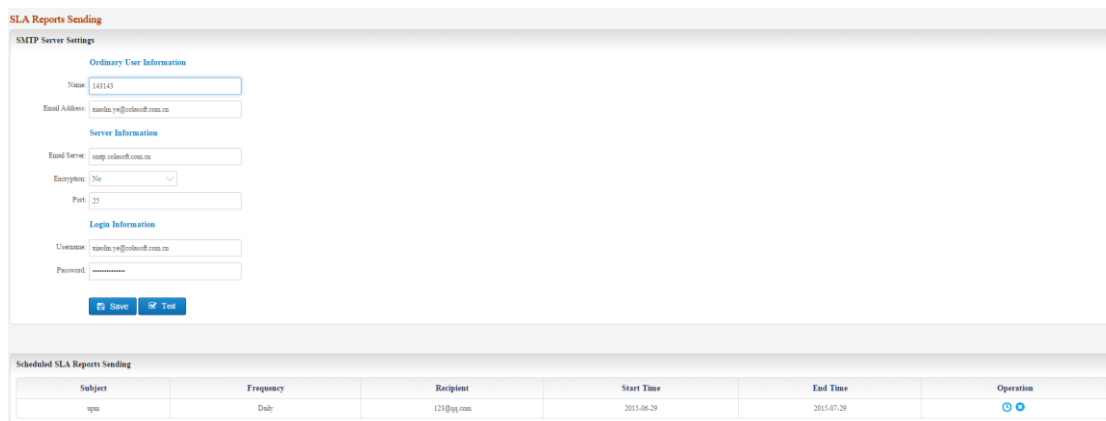
Related Alarm: pps

イベント、イベント持続時間、イベント発生時間、イベント説明、処理人、イベント処理の詳細、アドバイス、関連ビジネス、関連アプリケーション、関連アラームを含め、アラームイベントに関する情報を入力します。

SLA レポート送信

SLA レポート送信ページでは、SLA レポートの定期送信タスクを集中的に管理することができます。

SLA レポート送信ページは下図のように表示されます。



SMTP Server Settings

Ordinary User Information

Name:

Email Address:

Server Information

Email Server:

Encryption:

Port:

Login Information

Username:

Password:

Subject	Frequency	Recipient	Start Time	End Time	Operation
ups	Daily	123@qq.com	2015-06-29	2015-07-29	<input type="button" value="ⓘ"/> <input type="button" value="⏸"/>

ユーザーは 定期送信する SLA レポートを延期したり、削除したりすることができます。

- 「延期」ボタンをクリックして、SLA レポートを延期するポップアップが表示されます。延期される時間は SLA レポートの有効時間です。例えば、定期送信する SLA レポートの有効時間が 1 年の場合、延期される時間も 1 年となります。
- 「削除」ボタンをクリックして、定期送信する SLA レポートを削除するポップアップが表示されます。定期送信する SLA レポートが削除されると、レポートはこれ以上送信されません。

ユーザーアカウント

ユーザーアカウントページでは、ユーザーアカウントを追加、修正、削除したり、ログイン時間、ログイン IP、ログイン回数などを含め、ユーザーのログイン情報を確認したりすることができます。

ユーザーアカウントページは下図のように表示されます。

Operation	User Account	Name	Status	Email Address	Last Login Time	Last Login IP	Login Times
<input type="checkbox"/>	cradum	cradum	Enable		2015-07-06 14:38:31	192.168.9.68	27
<input type="checkbox"/>	sdum	sdum	Enable		2015-07-06 11:32:53	192.168.9.67	18
<input type="checkbox"/>	patng	patng	Enable		2015-06-26 14:43:45	192.168.9.68	2
<input type="checkbox"/>	psds	psds	Enable		2015-06-26 14:51:06	192.168.9.68	2
<input type="checkbox"/>	233333	111111	Enable				0

ユーザーアカウントを追加

「追加」ボタンをクリックして、下図のようにユーザーを追加するページに入ります。

Username:
 Password:
 Re-enter Password:
 Status: Enable Disable Note: "Disable" will make the user account fail to be logged in.
 Role: Administrator Ordinary User
 Privilege Settings:
 Email Address:
 Name:
 No.:
 Department:
 Notes:
 User Privilege:

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> upm server data	<input type="checkbox"/> Centralized Business Monitoring	<input type="checkbox"/> Comprehensive Index Query	<input type="checkbox"/> Business Analysis	<input type="checkbox"/> Multi-segment analysis	<input type="checkbox"/> Download Packets
<input type="checkbox"/> IPV6	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> tg	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> fg	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> gvf	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> g	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 1123	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

管理者と一般ユーザーという二つのユーザーロールを追加することができます。

- 管理者は全体システムに対し、管理することができます。具体的な権限には、ユーザーアカウント、監査ログ、システムアクティベーション、設定のインポート/エクスポート、およびシステム設定が含まれています。
- 一般ユーザーには、設定権限があるユーザーと設定権限がないユーザーがあります。設定権限には、インテリジェンスアプリケーション整理、アプリケーション管理、事前定義のアラーム、ビジネス設定、nChronos サーバー管理、プローブ管理、ネットワークセグメント管理、ネットワークデバイス管理、イベント管理、および SLA レポート管理が含まれています。設定権限がない一般ユーザーの場合、各ビジ

ネスに対する権限をそれぞれ設定する必要があります。そのビジネスに対する権限には、ビジネスの集中的監視、総合指標のクエリ、ビジネス解析、マルチセグメント解析、およびパケットのダウンロードが含まれています。

ユーザー権限を確認

「ユーザー権限を表示」ボタンをクリックして、ユーザー権限が表示されるページに入ります。このページは下図のように UPM センターにおけるユーザーとビジネスの権限関係を表示します。

	putong	test1	test123456
test		Business Analysis, Centralize ...	Business Analysis, Centralize ...
testuu		Business Analysis, Centralize ...	Business Analysis, Centralize ...
123123	Centralized Business Monitori ...	Business Analysis, Centralize ...	Business Analysis, Multi-Segm ...
bbc	Centralized Business Monitori ...		Centralized Business Monitori ...
wyj		Business Analysis, Centralize ...	

SMTP 設定

SMTP サーバーは、SMTP プロトコルに基づき E メールを送信または転送する E メールサーバーです。SMTP サーバーを正しく設定している場合にのみ、アラーム、syslog、および SLA レポートを指定の受信者に送信することができます。SMTP 設定ページは下図のように表示されます。

SMTP Server Settings

Ordinary User Information

Name:

Email Address:

Server Information

Email Server:

Encryption: ▼

Port:

Login Information

Username:

Password:

以下のリストは、SMTP 設定ページにおける各オプションについて説明しています。

- **名前:** 送信者の名前を入力します。
- **E メールアドレス:** 送信者の E メールアドレスをにゅうりよくします。
- **E メールサーバー:** E メールサーバーのアドレスを入力します。
- **暗号化:** E メールサーバーの暗号化タイプを設定します。UPM は SSL の暗号化をサポートします。
- **ポート:** E メールサーバーのポート番号です。暗号化に「無し」を選択した場合、ポート番号はデフォルトで 25 となります。暗号化に「SSL」を選択した場合、ポート番号はデフォルトで 465 となります。
- **ユーザー名:** E メールサーバーにログインする送信者のユーザー名を入力します。
- **パスワード:** E メールサーバーにログインする送信者のパスワードを入力します。パスワードを空にすることもできます。

「テスト」をクリックして、SMTP 設定が正しいかどうかをチェックすることができます。

UPM 管理

本章は監査ログ、設定のインポート/エクスポート、システム情報、システムアクティベーション、およびシステム設定について説明します。

監査ログ

監査ログページは下図のように操作の詳細なログ情報を提供します。そして、特定の時間帯におけるあるユーザーのログをフィルタリングすることができます。

Account	IP Address	Time	Module	Operation
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:22:31	Application module	Multi segment data
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:22:32	Application module	Multi segment data
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:22:56	Application module	Multi segment data
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:20:01	Application module	Multi segment data
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:20:01	Application module	Multi segment data
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:20:01	Application module	Multi segment data
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:20:01	Application module	Process alarm time slice
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:20:01	Application module	Process alarm time slice
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:19:36	Business module	Business analysis alarm log
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:19:36	Business module	Application Key Index
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:19:36	Business module	Fail event business analysis
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:19:36	Business module	Business analysis query alarm count
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:19:36	Business module	Query overall index
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:19:36	Business module	View business monitoring alarm information
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:19:36	Business module	View centralized business monitoring timeline
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:19:34	Business module	View centralized business monitoring alarm statistics
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:19:34	Business module	View business monitoring alarm information
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:19:34	Business module	View centralized business monitoring timeline
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:19:29	Index module	Index compression at the same time
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:19:27	Index module	Query overall index
admin	192.168.9.67	2015-07-06 21:19:27	Index module	Process alarm time slice

「エクスポート」ボタンをクリックして、フィルタリング後の監査ログを.csv ファイルにエクスポートすることができます。

注意 管理者だけ監査ログの確認とエクスポートをすることができることに注意してください。

設定をインポート/エクスポート

管理者だけ設定をインポート/エクスポートすることができます。

設定をインポート

設定をインポートするページは下図のように表示されます。

Settings Import/Export Module

Import Settings | Export Settings

The maximum size of a single file is 50MB. (Draggable under mainstream browsers)

File Name	Upload Status	File Size
Please select file.		

Select File | Start Uploading | Stop Uploading | 0% | 0 kb

以下のステップに従い、設定ファイルをインポートします。

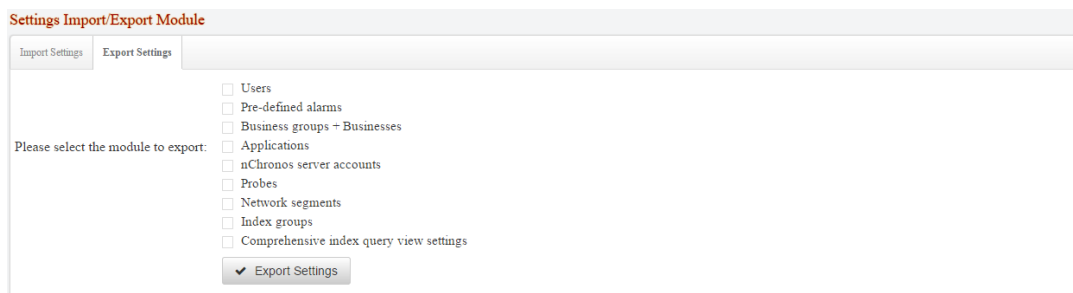
1. インポートする設定ファイルを選択します。Chrome ブラウザではインポートする設定ファイルを直接にファイルリストにドラッグすることができます。
2. 「アップロードを開始」ボタンをクリックして、設定ファイルをアップロードします。

3. インポートされる設定ファイルが UPM の既存の設定情報と競合がある場合、ユーザーはスキップか、上書きか、キャンセルかを選択することができます。

設定ファイルをインポートするとき、「アップロードを停止」ボタンをクリックして、設定ファイルのアップロードを停止することができます。

設定をエクスポート

設定をエクスポートページは下図のように表示されます。



Settings Import/Export Module

Import Settings | **Export Settings**

Please select the module to export:

- Users
- Pre-defined alarms
- Business groups + Businesses
- Applications
- nChronos server accounts
- Probes
- Network segments
- Index groups
- Comprehensive index query view settings

Export Settings

設定をエクスポートページで、エクスポートするモジュールにチェックを入れて、「設定をエクスポート」ボタンをクリックして、設定ファイルのエクスポートを完了します。

システム情報

システム情報ページでは、下図のように製品とサーバーの情報が表示されます。

Product Information
Product Name: Colasoft UPM
Product Version: 4.0.0.8330
Start Time: Mon Jul 06 11:31:46 CST 2015

Server Information
OS Name: Linux
OS Architecture: amd64
OS Version: 2.6.32-431.1.2.0.1.el6.x86_64
Total Memory(JVM): 4GB
Available Memory(JVM): 2.7GB
Maximum Available Memory(JVM): 17.78GB
Total Memory (Physical Memory): 7.65GB
Available Memory (Physical Memory): 244.68MB
JAVA Version: 1.7.0_67
MongoDB Version: 3.0.1
Current Time: Mon Jul 06 21:36:55 CST 2015

システムアクティベーション

システムアクティベーションページでは、下図のように製品のライセンス情報が表示されます。

License

License Information

Product name: Colasoft UPM

Product version: 4.0

Serial Number:

Feature version: Ultimate

Release version: Standard

Current Time: 2015-07-06 21:37:28

Start Time: 2015-03-18 13:00:00

Expire at: 2016-03-18 13:00:00

Validity Period: Permanent

Maximum businesses: 10

Maximum applications: 10

✓ Reactivate

Note ライセンス情報を変更した場合、製品を再アクティブ化する必要があります。

システム設定

ワーキング時間を設定

ワーキング時間を設定することで、ユーザーはワーキング時間内のデータをクエリすることができます。ワーキング時間を設定するページは下図のように表示されます。

Working Time Setting

Morning: - Afternoon: -

Working days: Sunday Monday Tuesday Wednesday Thursday Friday Saturday

ユーザーは実際のワーキング時間により、曜日を指定し、午前と午後のワーキング時間をそれぞれ設定することができます。設定するとき、少なくとも曜日を一つ指定する必要があります。デフォルトでは、月曜日から日曜日まですべて選択され、ワーキング時間は午前 00:00 - 11:59、午後 12:00 - 23:59 となります。

ワーキング時間を設定した後、総合指標のクエリページで「ワーキング時間内のデータだけをクエリ」にチェックを入れると、クエリ結果は設定されたワーキング時間によって、フィルタリングします。

インテリジェンスアプリケーション整理設定

データ更新をするかどうかを設定します。データ更新は、多くのシステムリソースを占有しますので、アプリケーションを整理した後、データ更新タスクを閉じるのがお勧めです。

インテリジェンスアプリケーション整理設定ボックスは下図のように表示されます。

 Open Cancel (The task will take up much system resource, the task is suggested to be closed after applications are organized.)'"/>

Intelligent Application Setting

Data Update Task: Open Cancel (The task will take up much system resource, the task is suggested to be closed after applications are organized.)